

第一次いなべ市総合計画策定のための
まちづくり住民意識調査
報告書 < 概要版 >

住民意識調査・中学生アンケート調査・事業者アンケート調査

平成16年10月

いなべ市

目次

調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査方法	2
3. 回収結果	2
4. 報告書の見方について	2
住民意識調査・中学生アンケート調査の結果	3
1. 回答者の属性（住民意識調査）	3
2. 回答者の属性（中学生アンケート調査）	4
3. いなべ市の誇り・魅力、住み心地について	5
4. 福祉について	9
5. 教育・学習について	11
6. IT（情報通信技術）の活用について	13
7. 土地利用について	14
8. 産業について	14
9. 男女共同参画について	15
10. 災害対策について	16
11. 日常生活について	17
12. まちづくりの評価と今後の意向について	19
13. まちづくりへの参加意識について	23
14. いなべ市のイメージについて	25
事業者アンケート調査の結果	27
1. 事業者の属性	27
2. 企業活動上の地域環境について	28
3. 今後の企業活動に必要なことについて	29
4. 環境問題への取り組みについて	31
5. 誰もが働きやすい環境づくりについて	32
6. 情報化について	33
7. 地域活動等について	34

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、第一次いなべ市総合計画の策定に向けて、将来のまちづくりに関する市民あるいは事業者の意向を把握することにより、いなべ市の現状及び課題を抽出し、行政運営方針や計画立案のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

(1) 住民意識調査

いなべ市在住の20歳以上の男女を対象に、住民基本台帳より無作為に3,000人抽出し、郵送で配布・回収を行いました。(調査期間：平成16年8月2日から8月16日)

(2) 中学生アンケート調査

いなべ市の中学校に通う2年生の男女464人を対象とし、学校を通じて配布・回収を行いました。(調査期間：平成16年9月6日から9月10日)

(3) 事業者アンケート調査

いなべ市内にある事業所から無作為に50件抽出し、郵送で配布・回収を行いました。(調査期間：平成16年9月3日から9月17日)

3. 回収結果

回収標本数：1) 住民意識調査 ...1,479票 / 3,000票 (回収率49.3%)
2) 中学生アンケート調査... 453票 / 464票 (回収率97.6%)
3) 事業者アンケート調査... 40票 / 50票 (回収率80.0%)

4. 報告書の見方について

(1) グラフの見方について

集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しており、回答比率の合計が100.0%にならないことがあります。

複数回答形式の設問の場合、回答比率の合計が100.0%を超えることがあります。

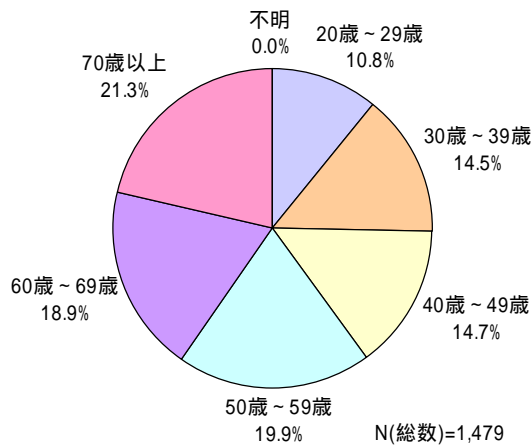
グラフ及び表中の「N」とはNumber of caseの略であり、集計対象者総数を表しています。

住民意識調査・中学生アンケート調査の結果

1. 回答者の属性（住民意識調査）

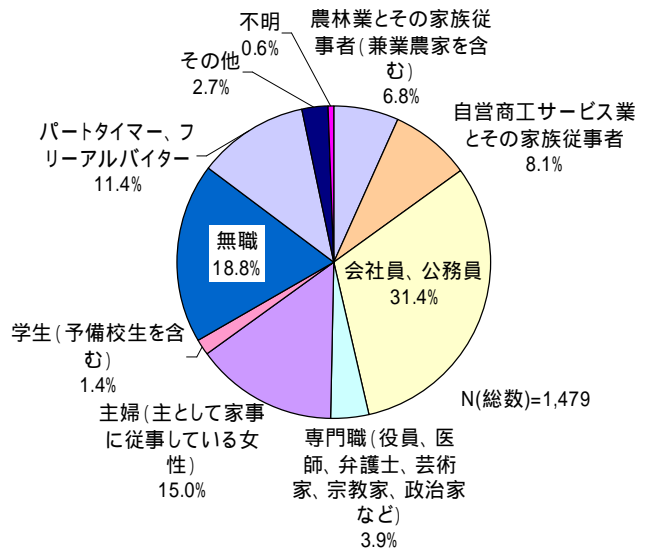
(1) 年齢

図表1-1 年齢 <20歳以上・単純>



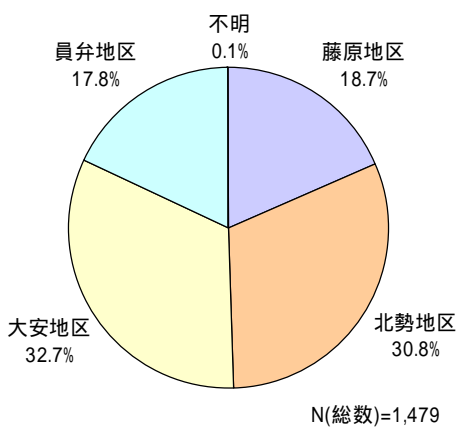
(2) 職業

図表1-2 職業 <20歳以上・単純>



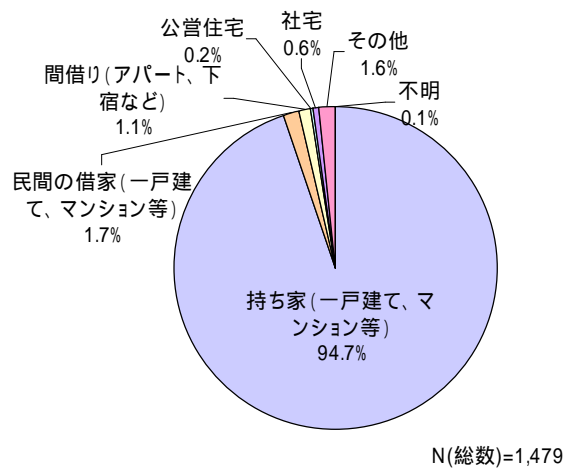
(3) 地区

図表1-3 地区 <20歳以上・単純>



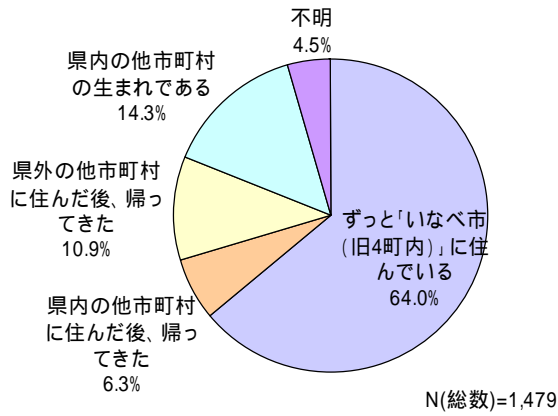
(4) 住まいの形態

図表1-4 住まいの形態 <20歳以上・単純>



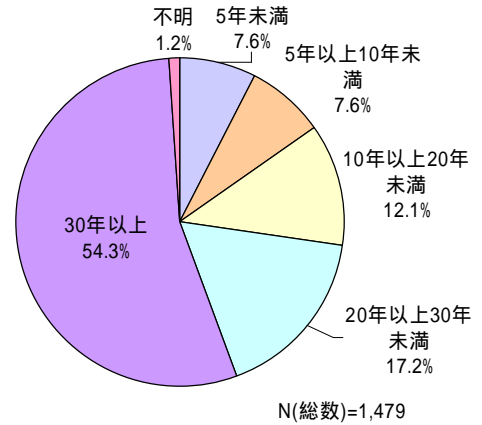
(5) 居住歴

図表1 - 4 居住歴 < 20 歳以上・単純 >



(6) 居住期間

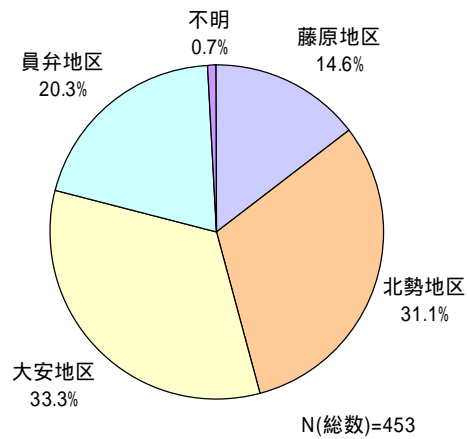
図表1 - 6 居住期間 < 20 歳以上・単純 >



2 . 回答者の属性 (中学生アンケート調査)

(1) 地区

図表2 - 1 地区 < 中学生・単純 >



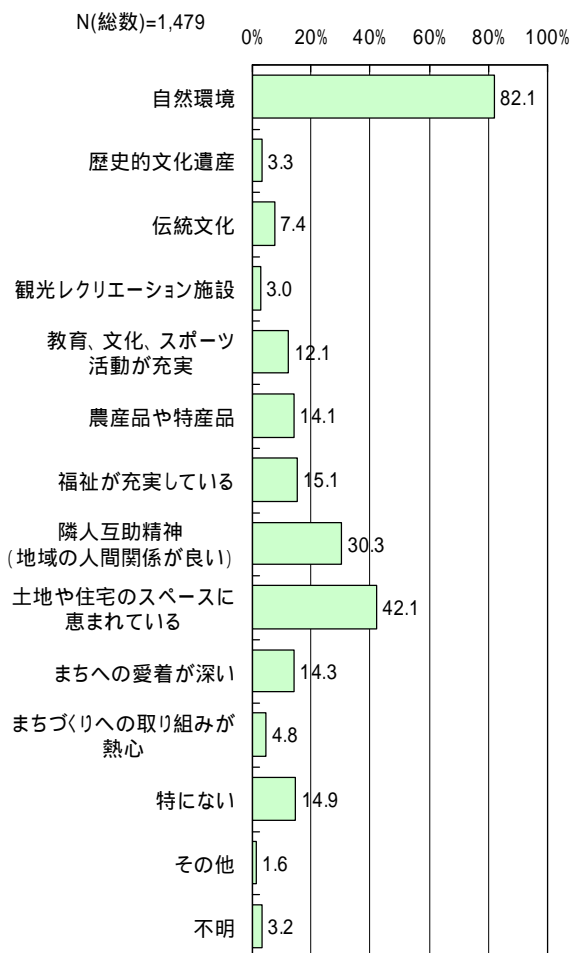
3. いなべ市の誇り・魅力、住み心地について

(1) 誇り・魅力について

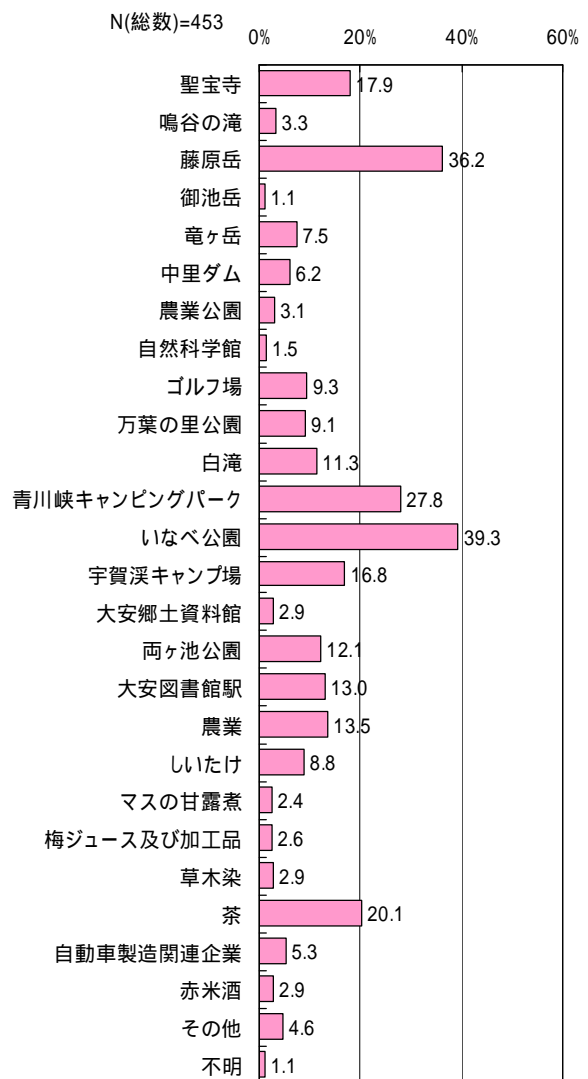
○自然環境が約8割。中学生はいなべ公園と藤原岳。

- ・ いなべ市の誇り・魅力については、「自然環境」が82.1%と最も高く、次いで「土地や住宅のスペースに恵まれている」が42.1%、「隣人互助精神(地域の人間関係が良い)」が30.3%となっており、自然や空間、人に誇り・魅力を感じていることがわかります。
- ・ 中学生が思っている誇り、あるいは魅力について具体的に尋ねたところ、「いなべ公園」が39.3%と最も高く、次いで「藤原岳」が36.2%、「青川峡キャンプパーク」が27.8%となっています。また、特産品の中では「茶」が20.1%と最も高くなっています。

図表3-1 誇り・魅力<20歳以上・単純>



図表3-2 誇り・魅力<中学生・単純>

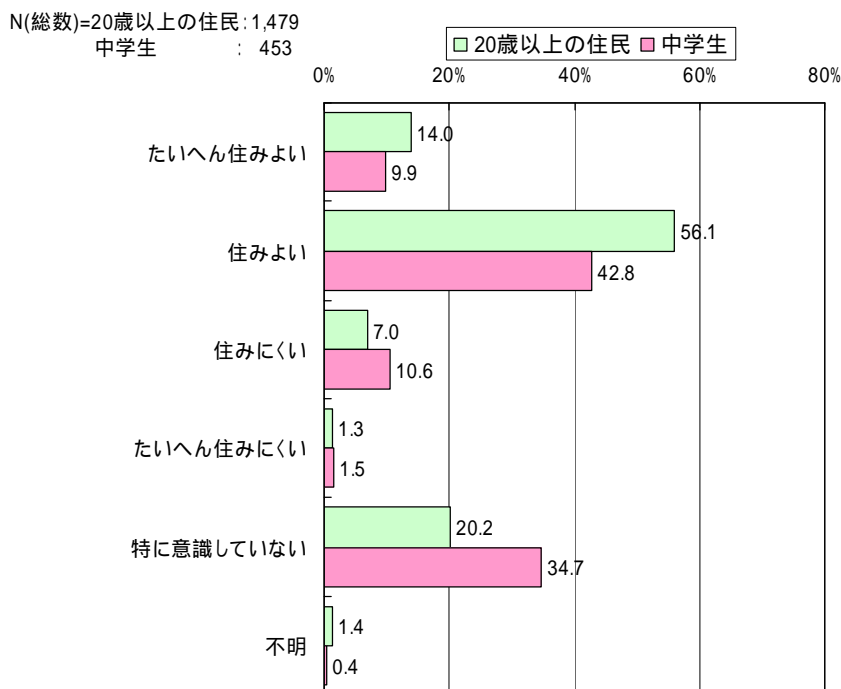


(2) 住み心地について

○『住みよい』と感じている人が20歳以上、中学生とも半数以上。

- ・ いなべ市の住み心地について尋ねたところ、「住みよい」が56.1%と半数を超えています。「たいへん住みよい」の14.0%を加えると『住みよい』と感じている人は70.1%となっています。
- ・ 中学生は52.7%が『住みよい』と感じています。

図表3 - 3 住み心地<単純>

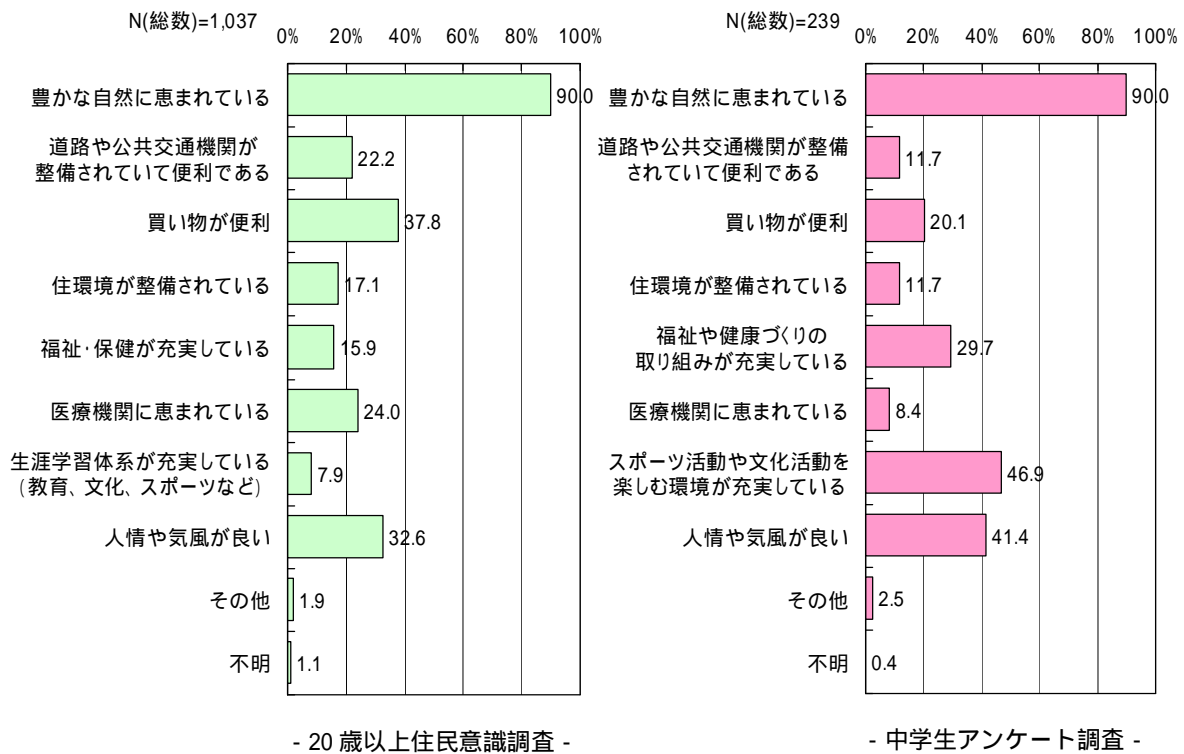


(3) 住みよいと思う理由

○住みよさの理由は豊かな自然に恵まれているところ。

- ・ 『住みよい』と答えた1,037人にその理由を尋ねたところ、「豊かな自然に恵まれている」が90.0%と群を抜いており、誇り・魅力でみられたように、自然の豊富さが住みよさの評価につながっています。続く回答は「買い物が便利」が37.8%、「人情や気風が良い」が32.6%となっています。
- ・ 中学生も「豊かな自然に恵まれている」が最も高くなっています。2位以下は「スポーツ活動や文化活動を楽しむ環境が充実している」が46.9%、「人情や気風が良い」が41.4%となっています。

図表3 - 4 住みよいと思う理由<単純>

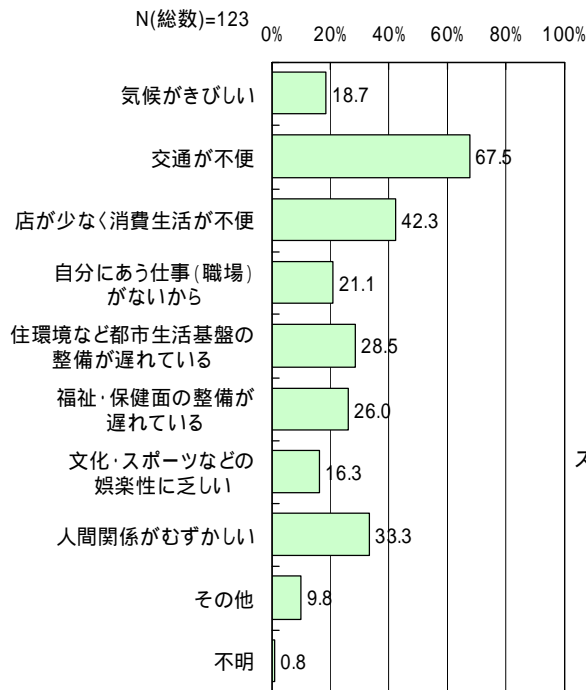


(4) 住みにくいと思う理由

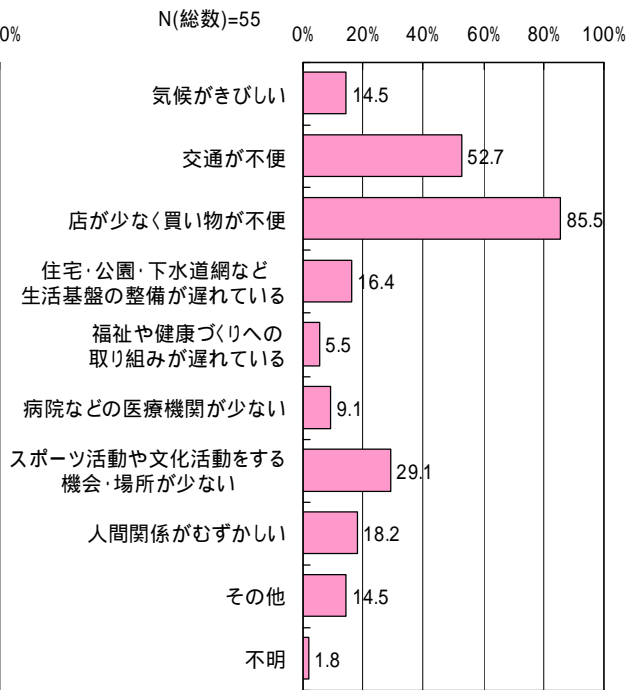
○住みにくい理由は交通や消費生活が不便なところ。

- ・ 『住みにくい』と答えた123人にその理由を尋ねたところ、「交通が不便」が67.5%と最も高く、次いで「店が少なく消費生活が不便」が42.3%、「人間関係が難しい」が33.3%となっており、生活の利便性をあげる人が特に多くなっています。
- ・ 中学生は「店が少なく消費生活が不便」が85.5%と20歳以上を上回っています。また、「スポーツ活動や文化活動をする機会・場所が少ない」が29.1%と3位となっており、利便性に加えてスポーツ・文化活動を行う環境の充実も求められています。

図表3 - 5 住みにくい理由<単純>



- 20歳以上住民意識調査 -



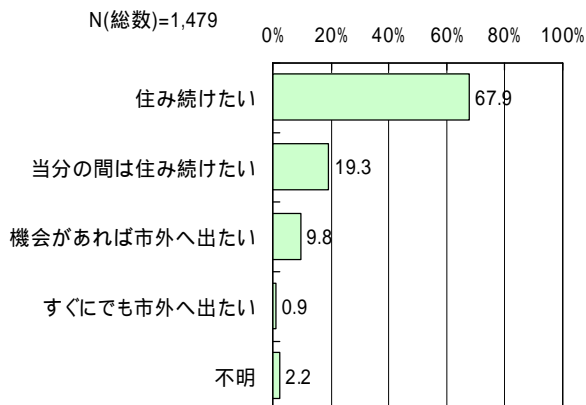
- 中学生アンケート調査 -

(5) 今後の居住意向

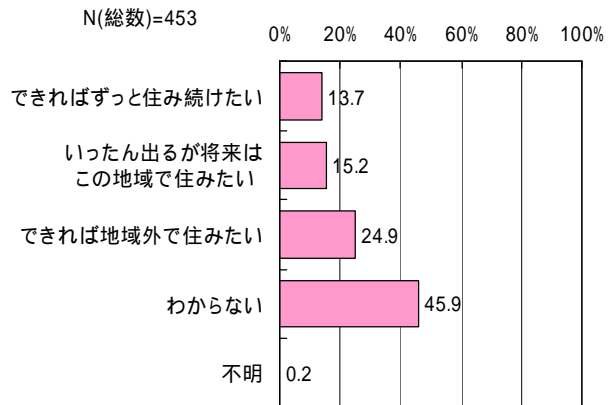
○今後の居住希望は9割弱。中学生で将来『住みたい』と思っている人は3割。

- ・ 今後の居住意向は「住み続けたい」が67.9%、「当分の間は住み続けたい」が19.3%と、『住み続けたい』と思っている人は87.2%となっています。
- ・ 中学生は「できればずっと住み続けたい」が13.7%、「いったん出るが将来はこの地域で住みたい」が15.2%と、将来『住みたい』と思っている人は合わせて28.9%となっています。

図表3 - 6 今後の居住意向<20歳以上・単純>



図表3 - 7 今後の居住意向<中学生・単純>



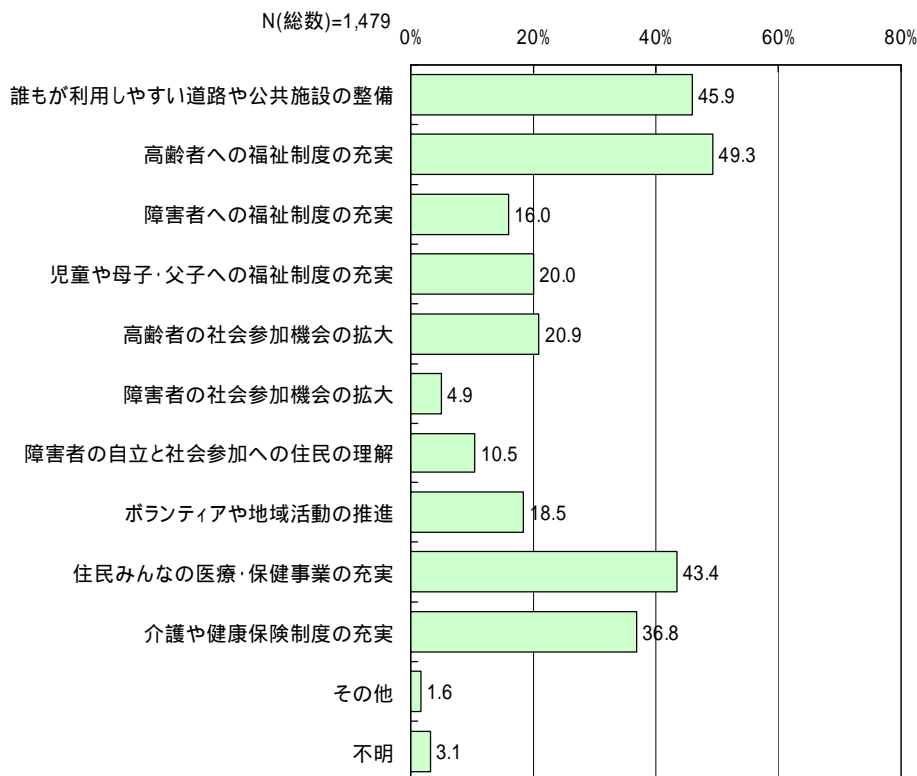
4. 福祉について

(1) 福祉の充実策について

○高齢者をはじめ、全ての人を対象とした充実策が求められています。

- 福祉を充実させていくために重要なことは、「高齢者への福祉制度の充実」が49.3%と最も高く、次いで「誰もが利用しやすい道路や公共施設の整備」が45.9%、「住民みんなの医療・保健事業の充実」が43.4%となっており、高齢者を対象とした制度の充実とともに、全ての人を対象とした利用しやすい公共施設整備や医療・健康づくりが重要とされています。

図表4-1 福祉の充実策<20歳以上・単純>

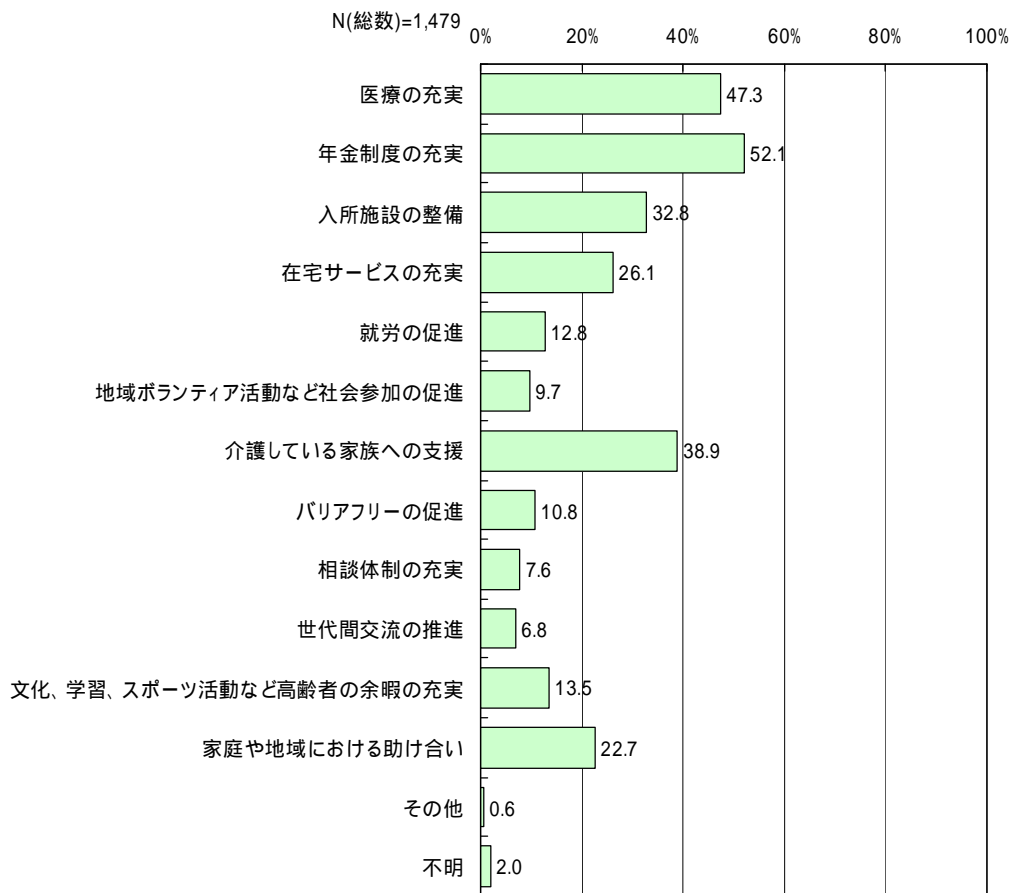


(2) 高齢者対策について

○高齢者対策は、年金、医療、介護家族への支援が求められています。

- 高齢者対策については、「年金制度の充実」が52.1%と最も高く、次いで「医療の充実」が47.3%、「介護している家族への支援」が38.9%となっており、生活を保障する制度の充実とともに、医療や介護家族への支援が求められています。

図表4 - 2 高齢者対策<20歳以上・単純>

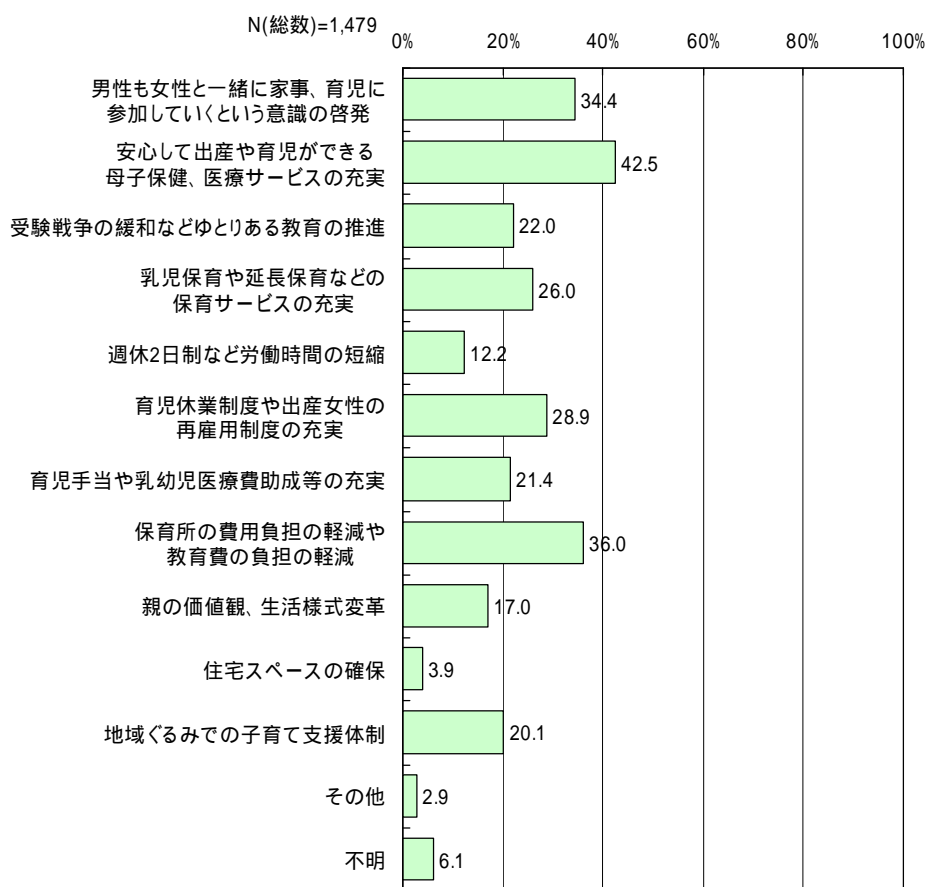


(3) 少子化対策について

○少子化対策は、母子保健・医療サービスの充実、保育・教育費負担の軽減、男性の育児参加が求められています。

- ・ 少子化対策については、「安心して出産や育児ができる母子保健、医療サービスの充実」が42.5%と最も高く、次いで「保育所の費用負担の軽減や教育費の負担の軽減」が36.0%、「男性も女性と一緒に家事、育児に参加していくという意識の啓発」が34.4%となっており、子どもを生子、育てていくためのサービスや費用と男性の育児参加が求められています。

図表4 - 3 少子化対策<20歳以上・単純>



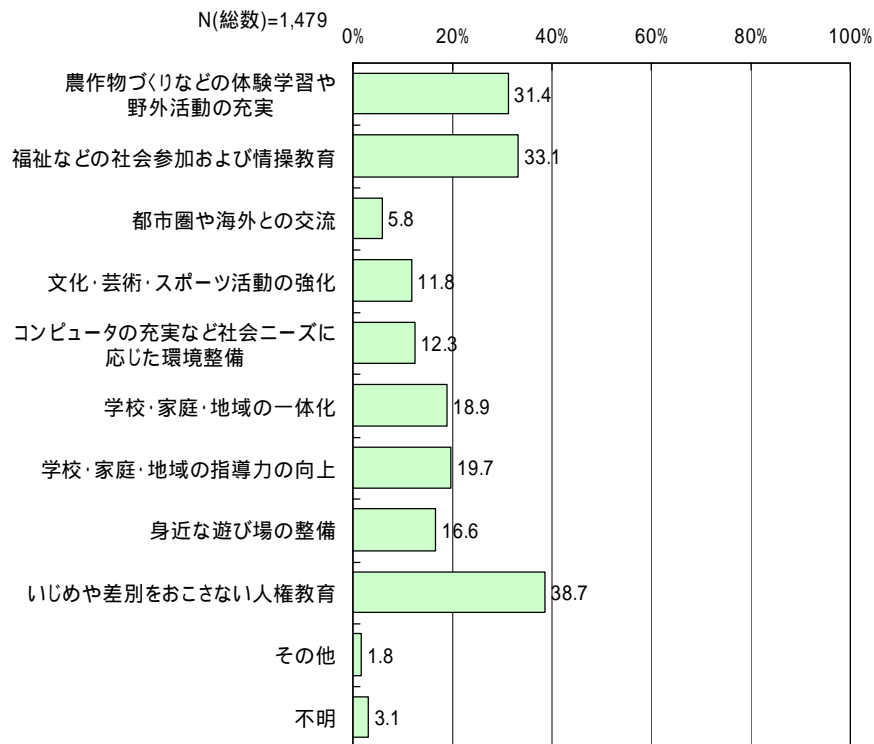
5 . 教育・学習について

(1) 子どもたちの教育環境について

○人権や福祉教育、体験学習等の環境整備が求められています。

- 子どもたちの教育環境の整備方策については、「いじめや差別をおこさない人権教育」が38.7%と最も高く、次いで「福祉などの社会参加および情操教育」が33.1%、「農作物づくりなどの体験学習や野外活動の充実」が31.4%となっており、幼いころからの人権教育や福祉、農業にふれるといった情操教育・体験学習が求められています。

図表 5 - 1 教育環境 < 20 歳以上・単純 >

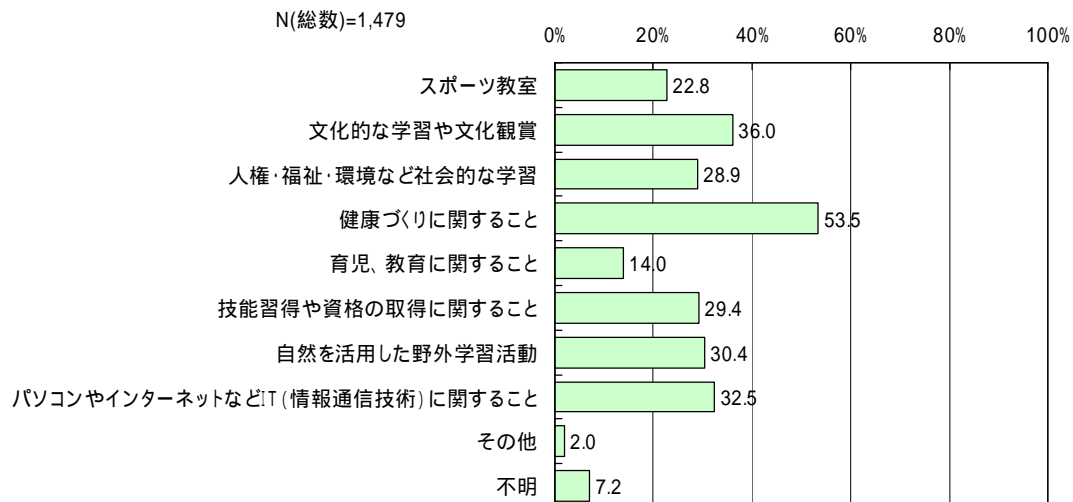


(2) 今後したい、続けたい学習活動について

○半数以上の方が健康づくりに関する学習をしたい(続けたい)と思っています。

- ・ 今後希望する学習活動については、「健康づくりに関すること」が 53.5%と群を抜いており、市全体の高齢化とともに健康づくりへの関心が高まっています。次いで「文化的な学習や文化観賞」が 36.0%、「パソコンやインターネットなど IT (情報通信技術) に関すること」が 32.5%となっています。

図表 5 - 2 学習活動 < 20 歳以上・単純 >



6. IT（情報通信技術）の活用について

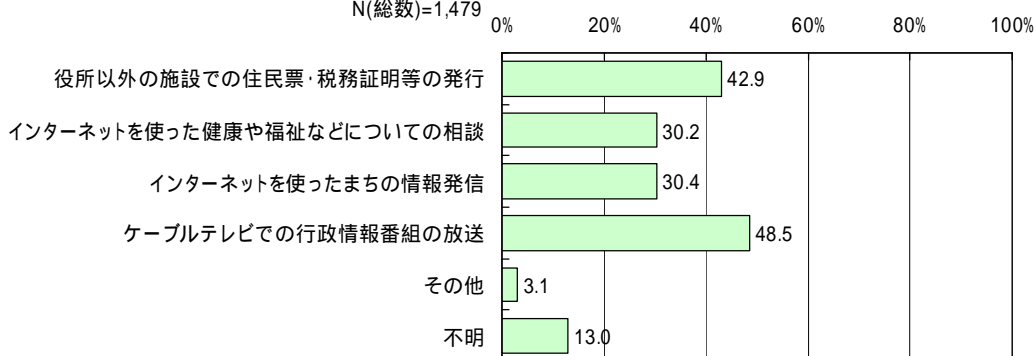
(1) IT（情報通信技術）を活用した地域情報化について

○ケーブルテレビの活用や役所以外での行政サービスが求められています。

- ・ IT（情報通信技術）の活用については、「ケーブルテレビでの行政情報番組の放送」が48.5%と最も高く、市民にとって身近な情報媒体を活用した地域情報化が求められています。次いで「役所以外の施設での住民票・税務証明等の発行」が42.9%となっています。

図表6-1 ITの活用<20歳以上・単純>

N(総数)=1,479



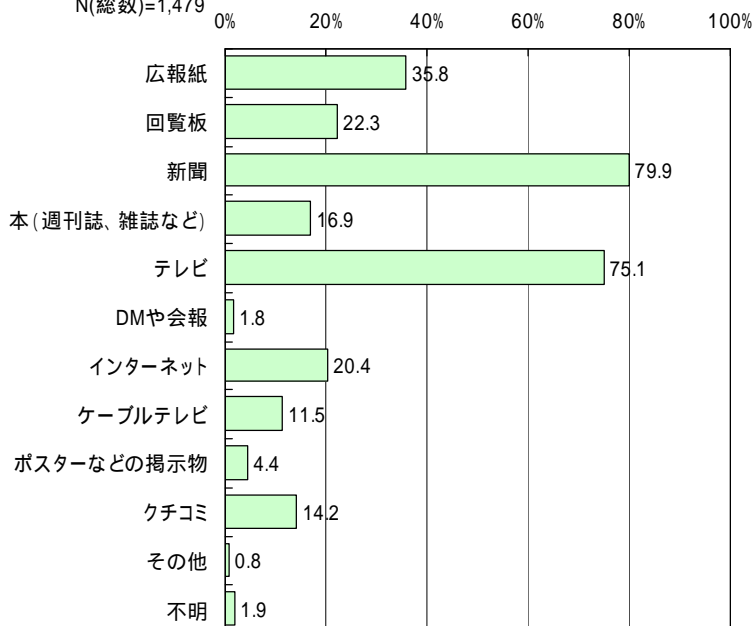
(2) 最も多く利用する情報手段について

○最も多く利用する情報手段は、新聞、テレビ、広報紙。

- ・ 利用する情報手段は、「新聞」が79.9%と最も高く、次いで「テレビ」が75.1%、「広報紙」が35.8%となっています。

図表6-2 情報手段<20歳以上・単純>

N(総数)=1,479



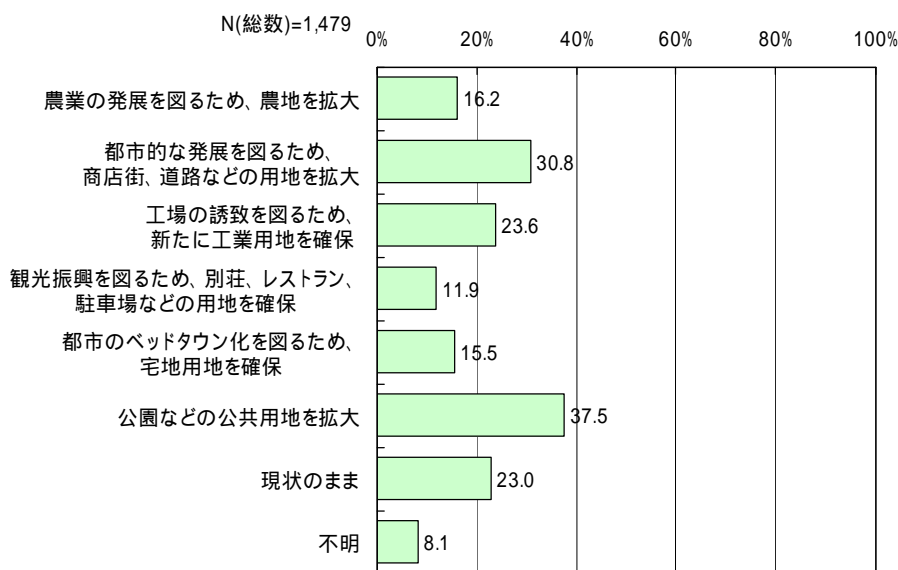
7. 土地利用について

(1) 土地利用の方向性について

○公園などの公共用地拡大や都市的な発展が求められています。

- ・ 「公園などの公共用地を拡大」が 37.5%と最も高く、次いで「都市的な発展を図るため、商店街、道路などの用地を拡大」が 30.8%、「工場の誘致を図るため、新たに工業用地を確保」が 23.6%となっており、ゆとりやうるおいを求める一方で、にぎわいや活力の創出といった土地利用の推進が望まれています。

図表 7 - 1 土地利用 <20 歳以上・単純>



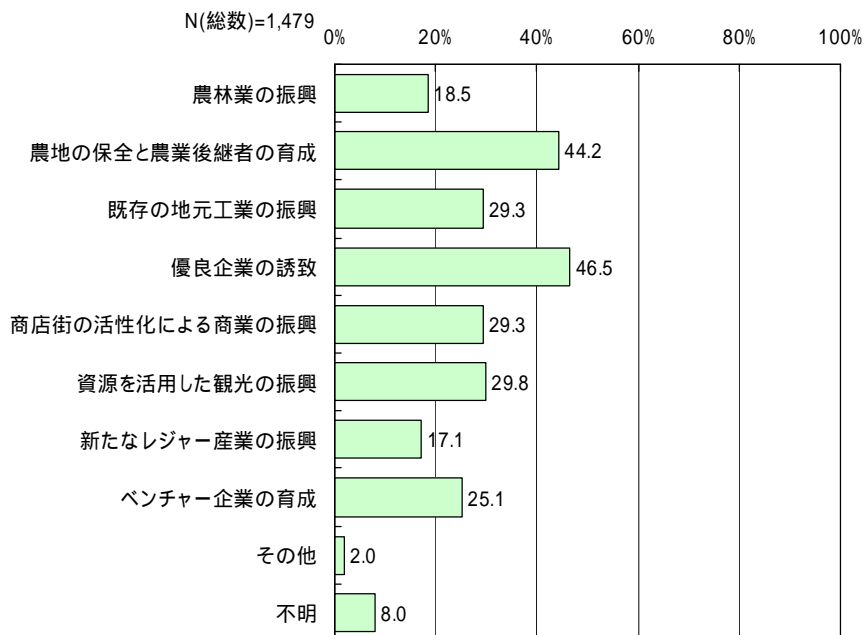
8. 産業について

(1) いなべ市の産業発展について

○優良企業の誘致及び農地の保全と農業後継者の育成が求められています。

- ・ 「優良企業の誘致」46.5%、「農地の保全と農業後継者の育成」44.2%がほぼ並んでいます。次いで観光の振興、地元工業の振興、商業の振興がいずれも3割弱となっており、新たな企業による地域の活性化と既存産業の振興策が求められています。

図表 8 - 1 産業発展策 <20 歳以上・単純>



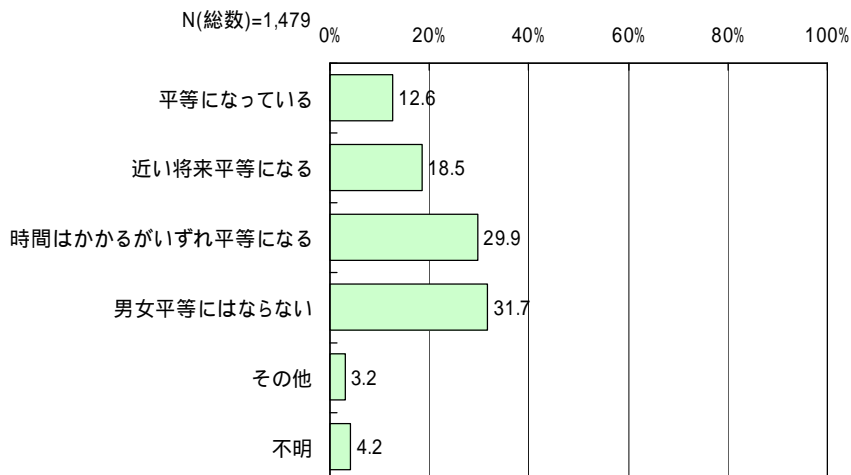
9 . 男女共同参画について

(1) 男女平等について

○ 『平等になる』は約5割、『平等にならない』は約3割。

- ・ 男女平等について感じていることは、「男女平等にはならない」31.7%及び「時間はかかるがいずれ平等になる」29.9%がほぼ並んでいます。「平等になっている」は12.6%と最も低くなっています。
- ・ 「近い将来平等になる」及び「時間はかかるがいずれ平等になる」を合わせた『平等になる』は48.4%と5割弱になっています。

図表 9 - 1 男女平等意識 <20 歳以上・単純>

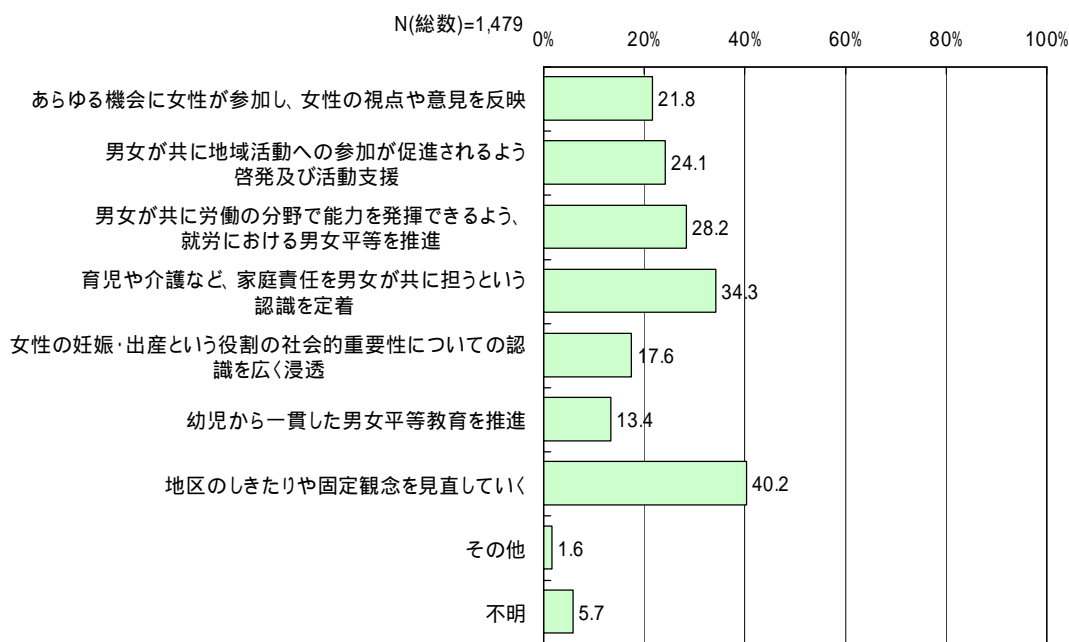


(2) 男女共同参画社会の実現について

○地域、家庭、就労の分野での取り組みが特に重要。

- 男女共同参画社会を実現するためには、「地区のしきたりや固定観念を見直していく」が40.2%と最も高く、次いで「育児や介護など、家庭責任を男女が共に担うという認識を定着」が34.3%、「男女が共に労働の分野で能力を發揮できるよう、就労における男女平等を推進」が28.2%となっており、地域、家庭、就労の分野からの取り組みが特に重視されています。

図表9 - 2 男女共同参画 < 20 歳以上・単純 >



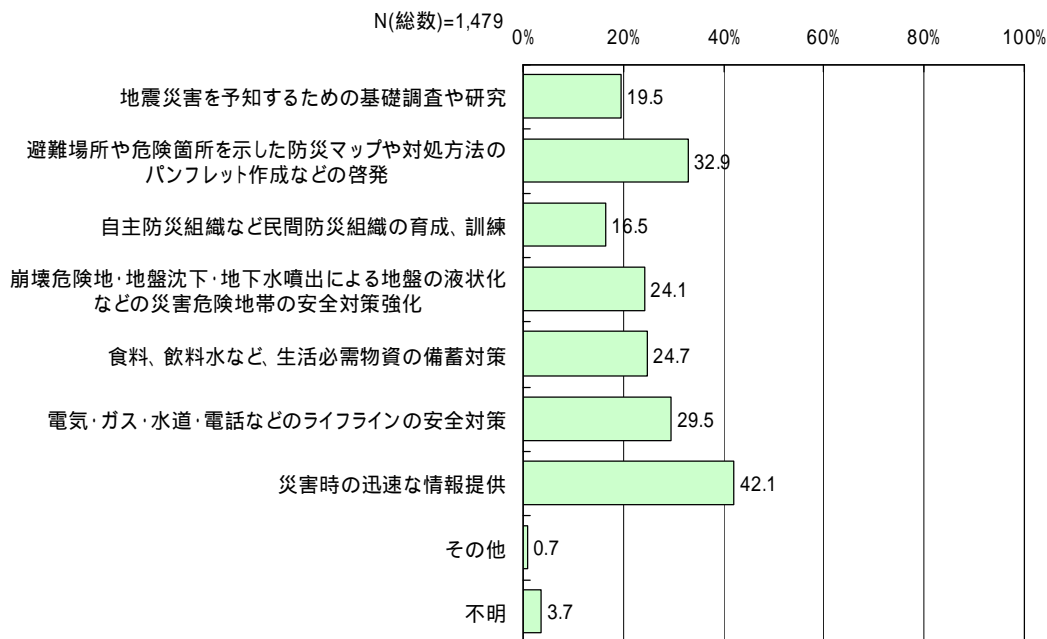
10. 災害対策について

(1) 災害対策について

○災害時の情報提供と事前の啓発・安全対策が特に求められています。

- 災害対策については、「災害時の迅速な情報提供」が42.1%と最も高く、次いで「避難場所や危険箇所を示した防災マップや対処方法のパンフレット作成などの啓発」が32.9%、「電気・ガス・水道・電話などのライフラインの安全対策」が29.5%となっており、災害時の情報提供と事前の啓発・安全対策が特に求められています。

図表 10 - 1 災害対策 < 20 歳以上・単純 >



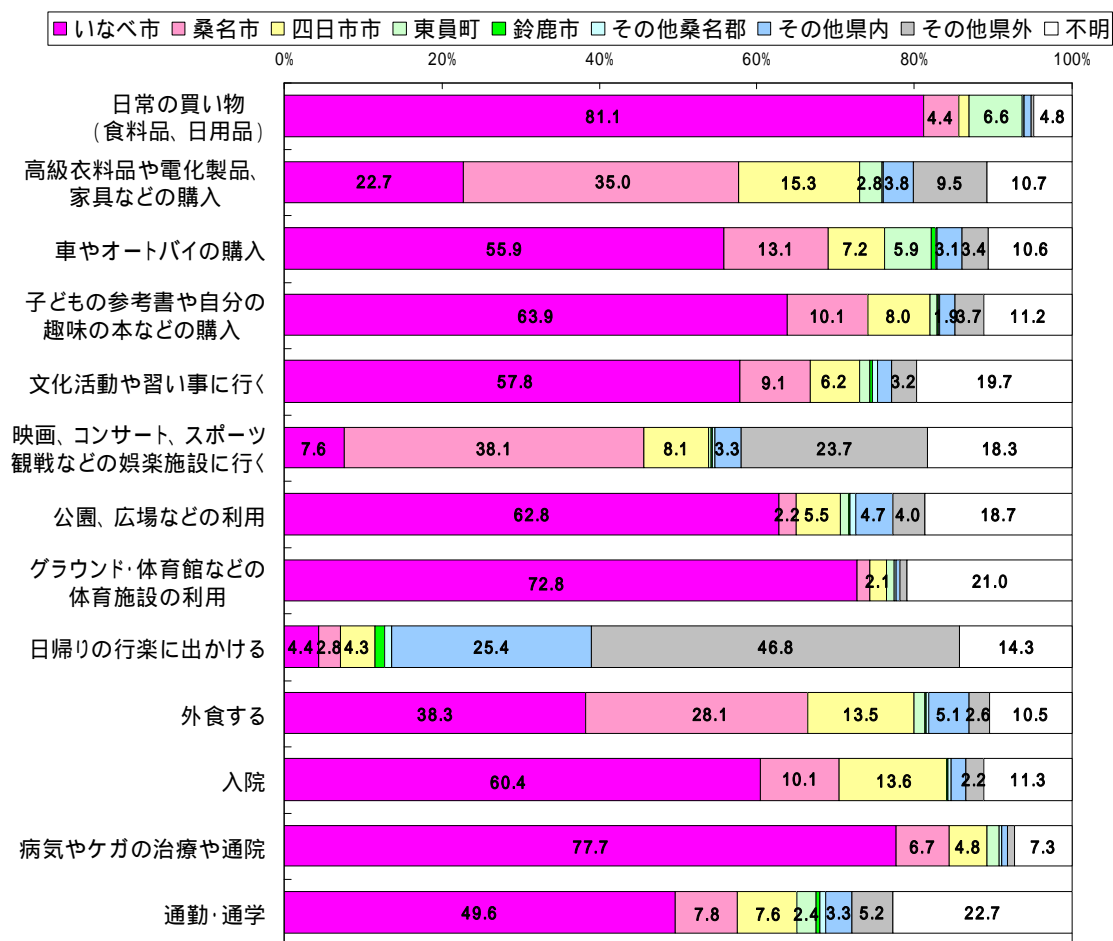
11. 日常生活について

(1) 日常の行動圏域について

○日常的な買い物や外出については、ほぼいなべ市内で行動されています。

- ・ 普段の様々な行動場所について尋ねたところ、「日常の買い物」「病気やケガの治療や通院」「グラウンド・体育館などの体育施設の利用」では、いなべ市への回答が7割を超え、これら以外の項目も含めると13項目中10項目でいなべ市での行動が最も多くなっています。
- ・ 一方、「高級衣料品や電化製品、家具などの購入」「映画、コンサート、スポーツ観戦などの娯楽施設に行く」では桑名市、「日帰りの行楽に出かける」ではその他県外への回答が最も多くなっており、いなべ市以外では桑名市との生活圏の結びつきが特に強いことが分かります。

図表 11 - 1 日常の行動圏域<20歳以上・単純>

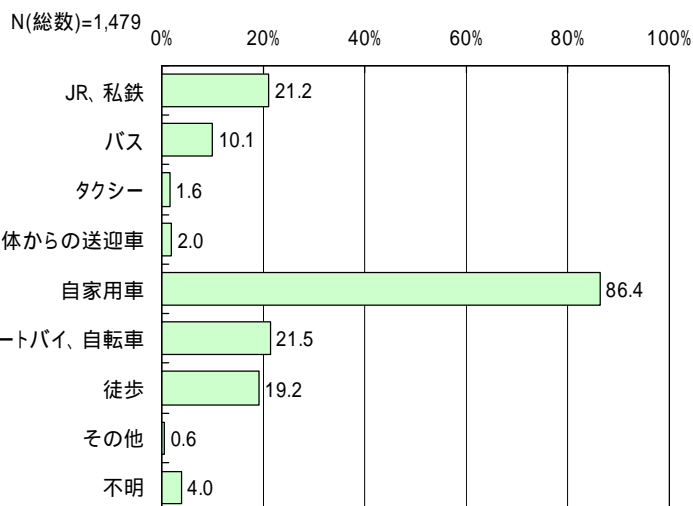


(2) 頻繁に利用する交通手段について

○頻繁に利用する交通手段は自家用車。

- ・ 頻繁に利用する交通手段は「自家用車」が86.4%と群を抜いています。次いで「オートバイ、自転車」が21.5%、「JR、私鉄」が21.2%と並んでおり、「徒歩」が19.2%と続いています。

図表 11 - 2 頻繁に利用する交通手段<20歳以上・単純>

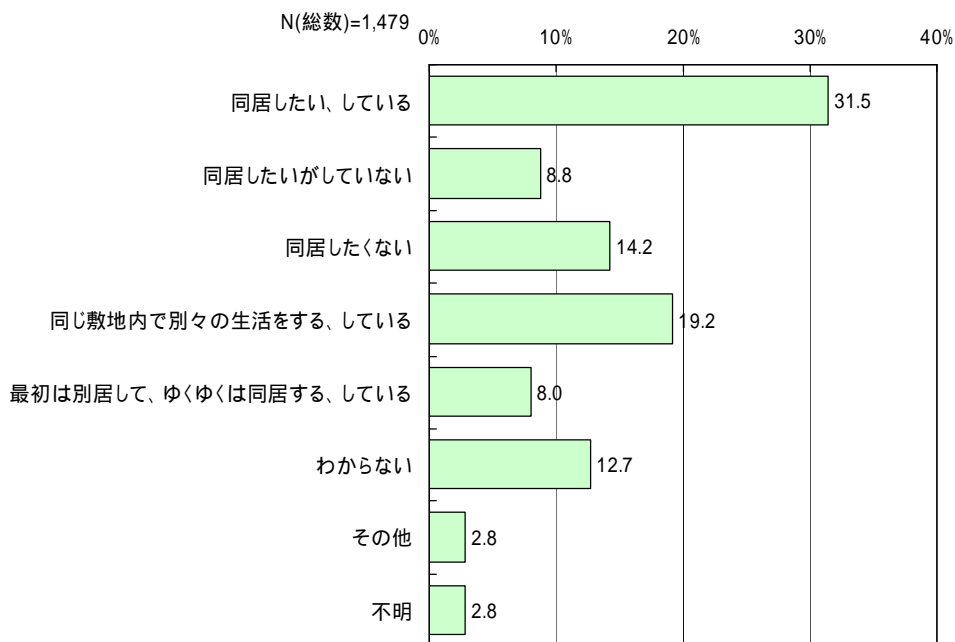


(3) 3世代の同居について

○約3割の人が同居したいと考えている、もしくは同居しています。

- ・ 3世代同居の考えについては、「同居したい、している」が31.5%と最も高く、次いで「同じ敷地内で別々の生活をする、している」が19.2%、「同居したくない」が14.2%となっています。

図表 11 - 3 3世代の同居 <20歳以上・単純>



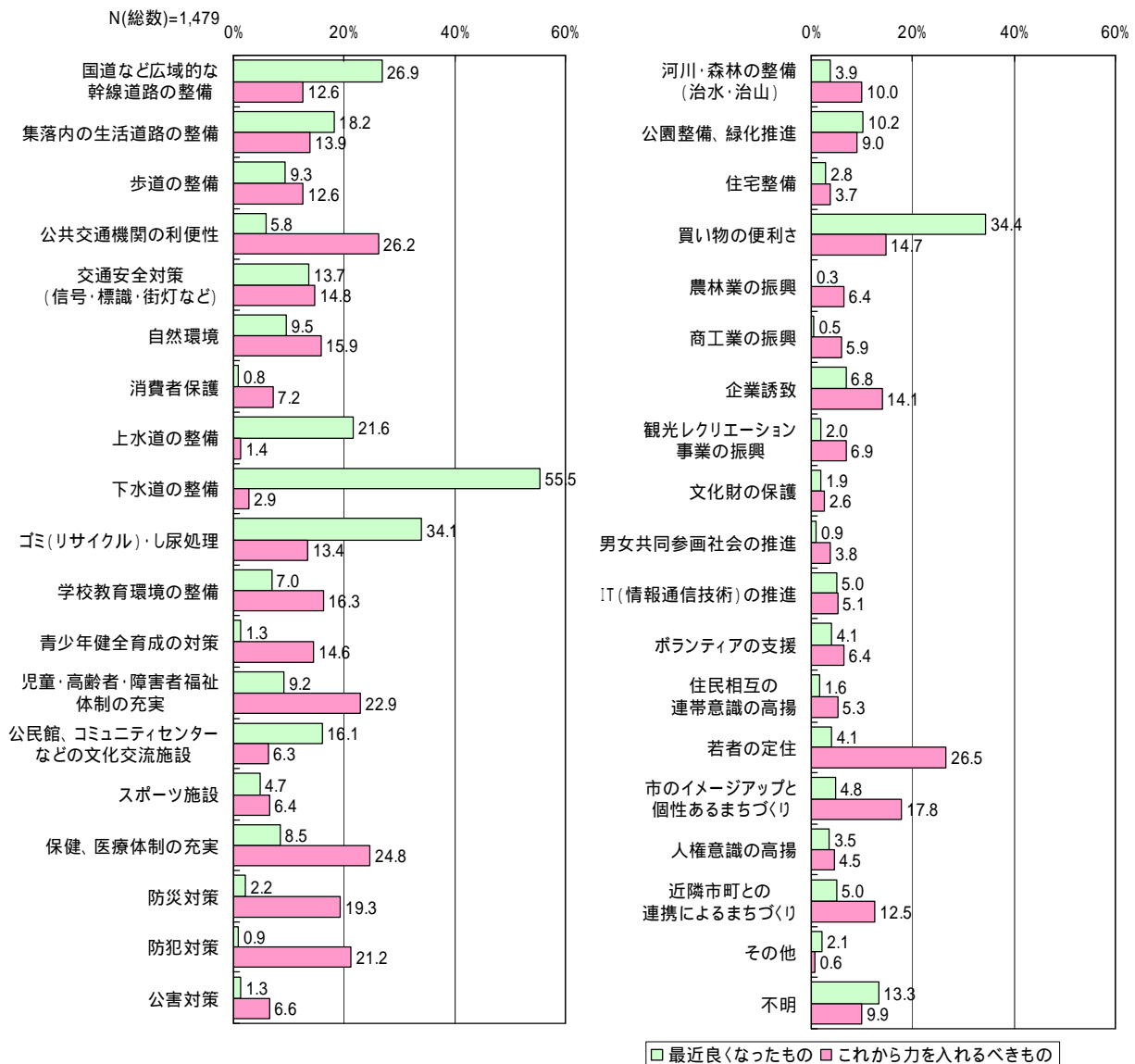
12. まちづくりの評価と今後の意向について

(1) 最近良くなったものとこれから力を入れるべきもの

○良くなったものは下水道の整備。これからは若者の定住が求められています。

- ・ 最近良くなったものは、「下水道の整備」が55.5%と最も高く、次いで「買い物の便利さ」が34.4%、「ゴミ(リサイクル)・し尿処理」が34.1%となっています。
- ・ またこれから力を入れるべきものは、「若者の定住」が26.5%と最も高く、次いで「公共交通機関の利便性」が26.2%、「保健・医療体制の充実」が24.8%となっています。

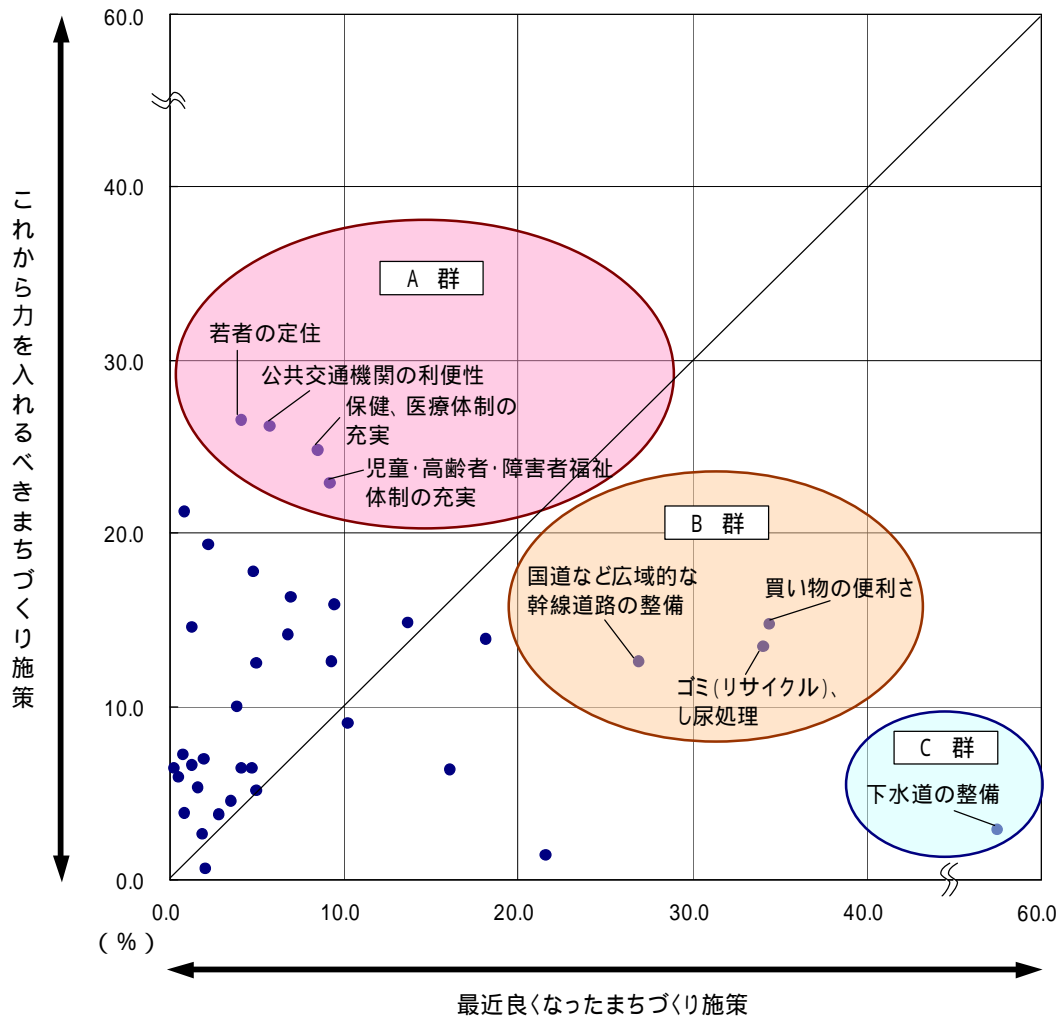
図表 12 - 1 良くなったもの・これから力を入れるべきもの<20歳以上・単純>



最近良くなったものとかこれから力を入れるまちづくりとの関連

- 最近良くなったものとかこれから力を入れるべきものの関連を散布図に表してみると、A群は、満足度が低く、これから力を入れるべきと考えられている項目群であり、「若者の定住」「公共交通機関の利便性」「保健、医療体制の充実」「児童・高齢者・障害者福祉体制の充実」が含まれています。B群は、ある程度の満足度はあるものの、今後も一定の取り組みが求められているものであり、「買い物の利便さ」「ゴミ(リサイクル)・し尿処理」「国道など広域的な幹線道路」の整備が含まれています。C群は、これまでの施策の中で最も満足度が高く、今後の要望としては低いもので、「下水道の整備」があげられています。

図表 12 - 2 良くなったもの・これから力を入れるべきもの<散布図>



各群の位置付け

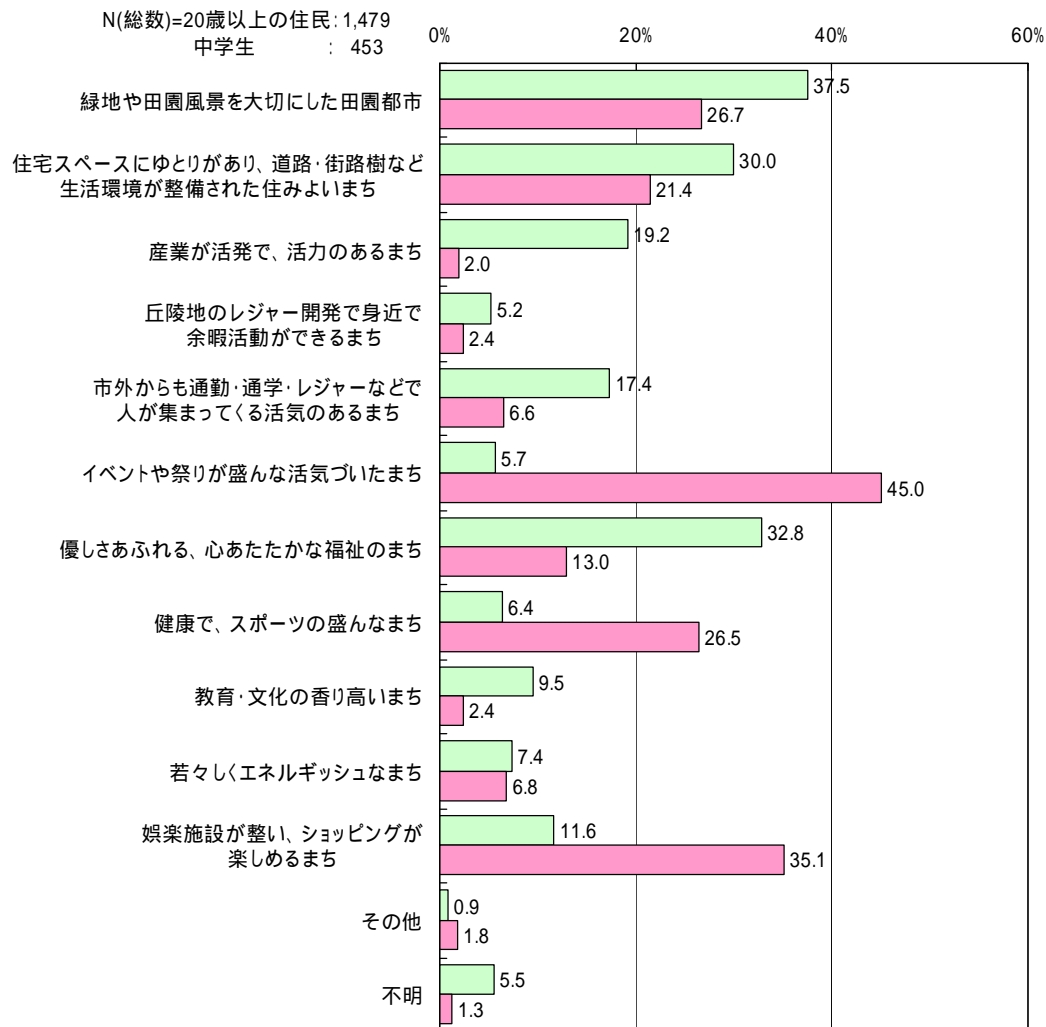
- A 群：最近のまちづくりでは満足度が低く、今後の要望度は高い。
- B 群：最近ある程度良くなった施策であり、今後の要望度はあまり高くない。
- C 群：最近特に良くなった施策で満足度が高く、今後の要望度は低い。

(2) いなべ市の将来像について

○緑豊かで生活環境が整備された優しさあふれる福祉のまち。

- ・ 将来のまちへの期待については、「緑地や田園風景を大切にした田園都市」が37.5%と最も高く、次いで「優しさあふれる、心あたかな福祉のまち」が32.8%、「住宅スペースにゆとりがあり、道路・街路樹など生活環境が整備された住みよいまち」が30.0%となっており、憩いや安心感のある住環境の整備されたまちづくりが求められています。
- ・ 中学生は「イベントや祭りが盛んな活気づいたまち」「娯楽施設が整い、ショッピングが楽しめるまち」「緑地や田園風景を大切にした田園都市」「健康でスポーツの盛んなまち」への回答が高くなっています。

図表 12 - 3 いなべ市の将来像 <20歳以上・単純>



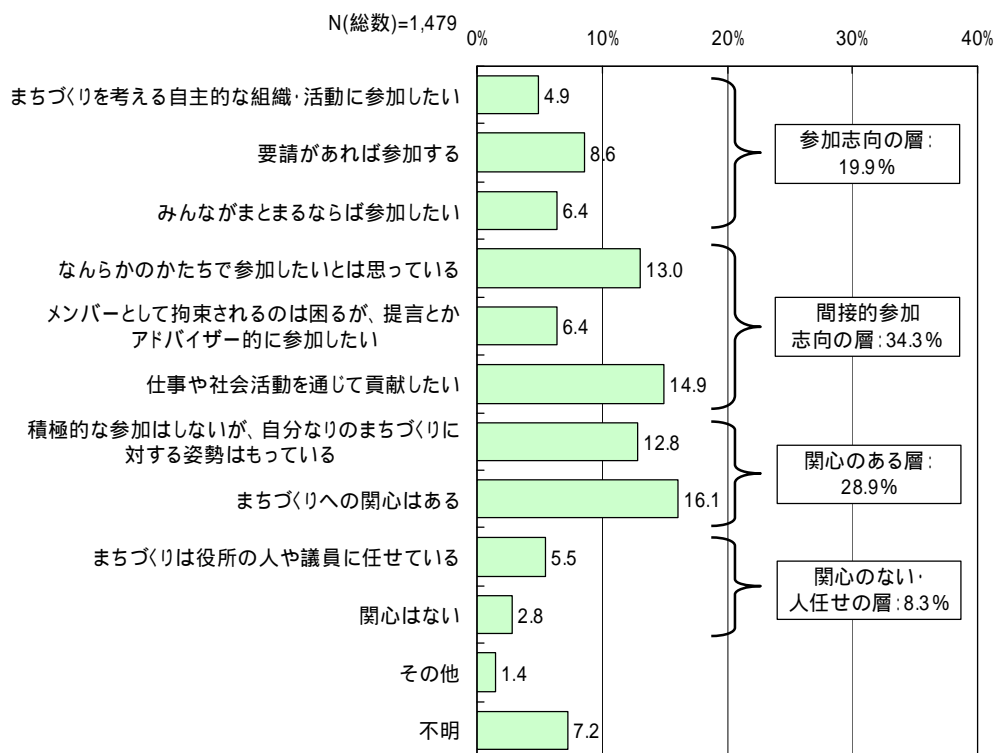
13. まちづくりへの参加意識について

(1) まちづくりに対する考え・気持ち

○5割強の人がまちづくりに参加したいと考えています。

- ・ まちづくりに対する参加の気持ちについて、各項目を4つの層に分類すると、『間接的参加志向の層』が34.3%と最も高く、次いで『関心のある層』が28.9%、『参加志向の層』が19.9%、『関心のない・人任せの層』が8.3%となっています。
- ・ 間接的参加・参加志向の層を合わせると5割強の人が、参加したいと考えていることが分かり、協働のまちづくりに向けてこの層へのアプローチを進める必要があります。また、『関心のある層』への啓発など積極的な働きかけも重要です。

図表 13 - 1 まちづくりへの考え・気持ち <20歳以上・単純>

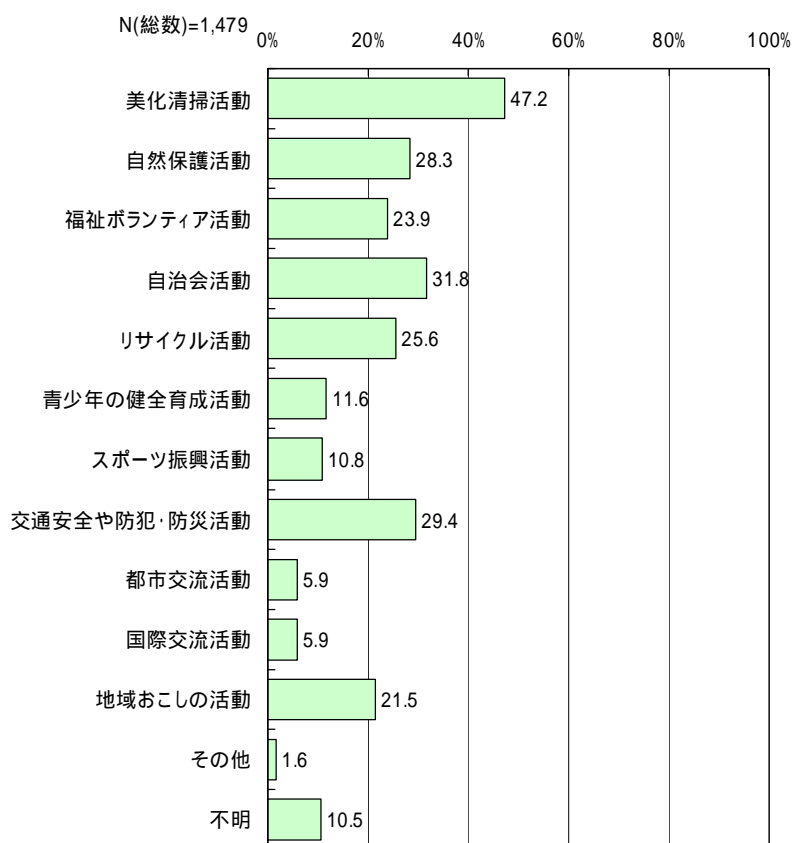


(2) 今後参加意向のある自主的活動について

○美化清掃活動や自治会活動への参加意向が高くなっています。

- ・ 自主的な活動の参加意向については、「美化清掃活動」が47.2%と最も高く、次いで「自治会活動」が31.8%、「交通安全や防犯・防災活動」が29.4%、「自然保護活動」が28.3%となっており、身近な地域の運営面や課題に対応した活動が上位となっています。

図表 13 - 2 参加意向のある自主的活動 <20 歳以上・単純>



14. いなべ市のイメージについて

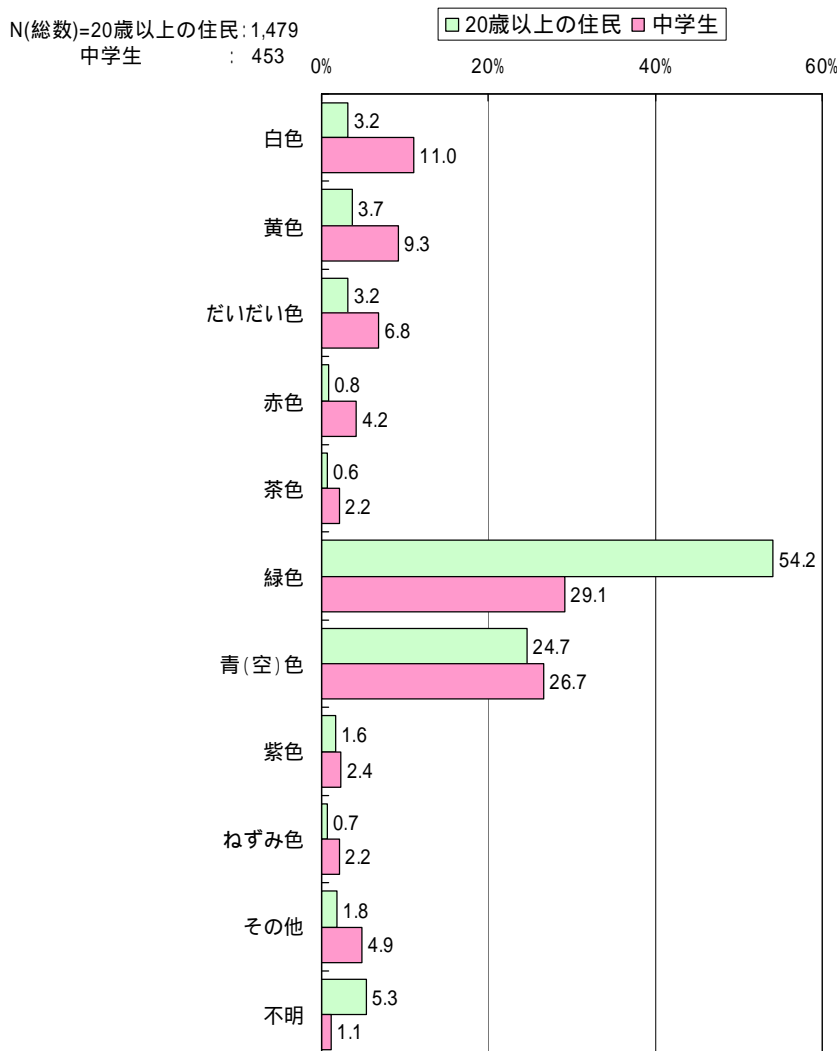
(1) いなべ市に似合う色

全体の傾向

○いなべ市に似合う色は緑が5割以上、次いで青(空)色。

- ・ 「緑色」が54.2%と群を抜いており、豊かな田園や丘陵地の緑がイメージされていると予想されます。次いで「青(空)色」が24.7%となっています。
- ・ 活気を表す「黄色」や「だいたい色」は3%台、マイナスイメージのある「紫色」や「ねずみ色」は1%前後と低くなっています。
- ・ 中学生のアンケート調査と比較すると、「緑色」への回答は約25ポイント上回り、「青(空)色」ではやや低くなっています。

図表 14 - 1 いなべ市に似合う色<単純>

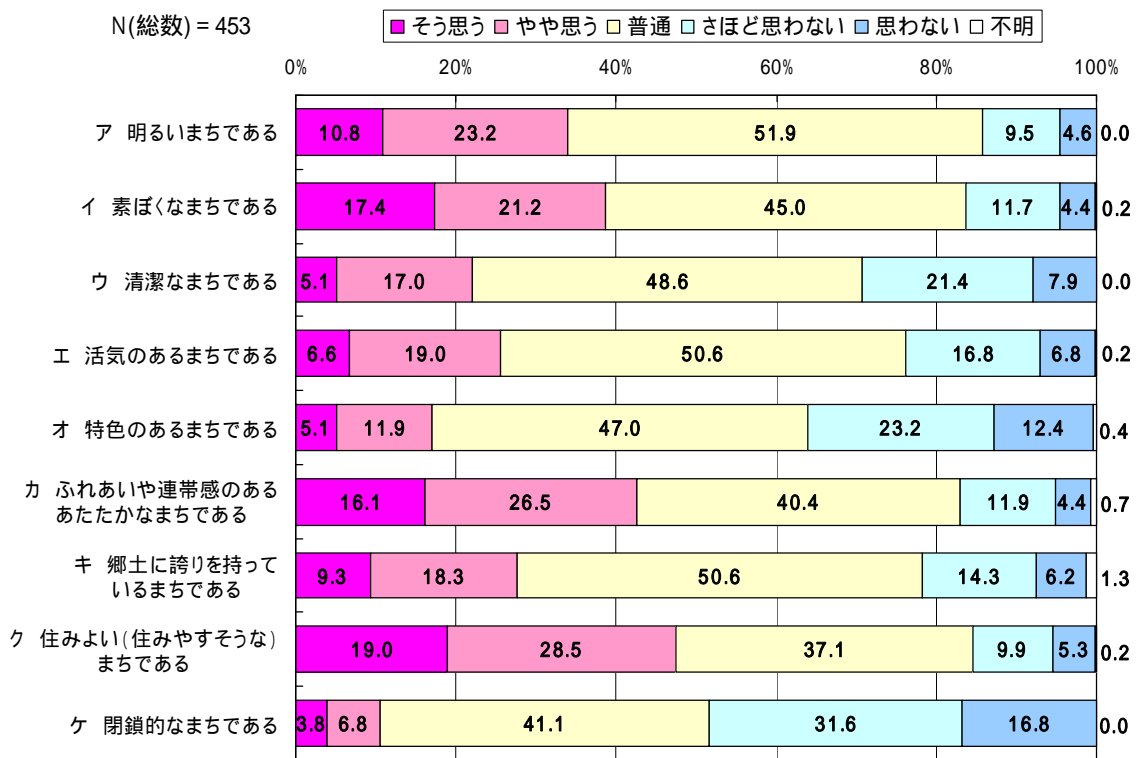


(2) いなべ市のイメージについて思うこと

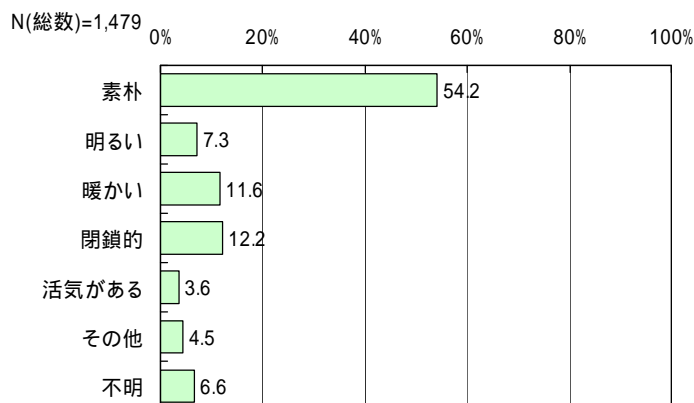
○4割から5割弱の人が、住みよく、あたたかなまちだと思っています。

- ・ 中学生が持っているいなべ市のイメージは、「そう思う」「やや思う」を合わせた肯定意見の上位項目をみると、「住みよい(住みやすそうな)まちである」が47.5%と最も高く、次いで「ふれあいや連帯感のあるあたたかなまちである」が42.6%、「素朴なまちである」が38.6%となっています。
- ・ 20歳以上は「素朴」が特に高くなっています。

図表 14 - 2 いなべ市のイメージ<中学生・単純>



図表 14 - 3 いなべ市のイメージ<20歳以上・単純>



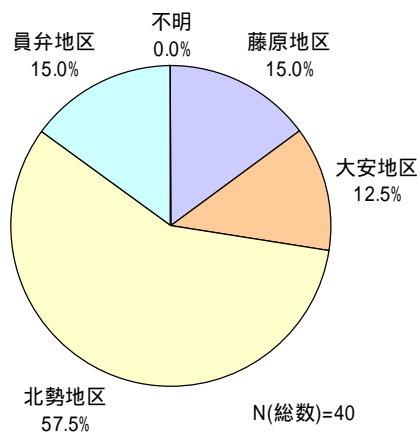
事業者アンケート調査の結果

1. 事業者の属性

(1) 所在地

- 集計対象となった事業者の所在地は、「北勢地区」が57.5%と半数を超えており、他の地区は1割台となっています。

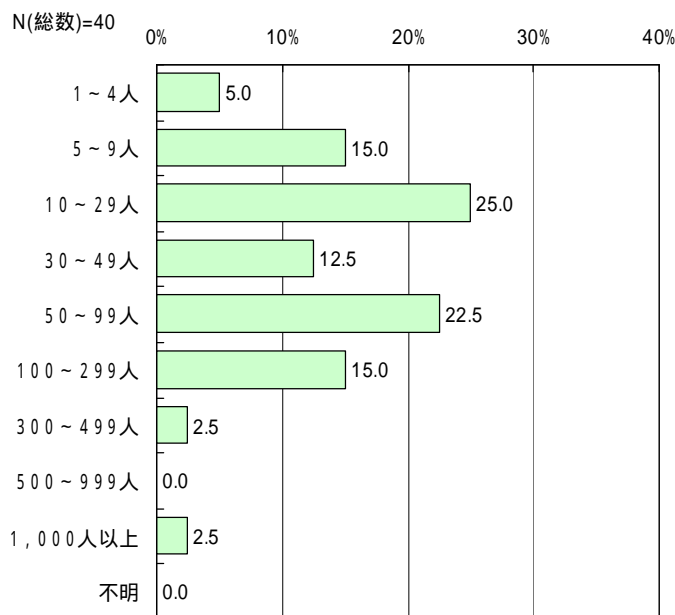
図表1-1 所在地<事業者・単純>



(2) 従業員数

- 従業員数は、「10~29人」が25.0%と最も多く、次いで「50~99人」が22.5%となっており、100人未満の規模の事業者が8割となっています。

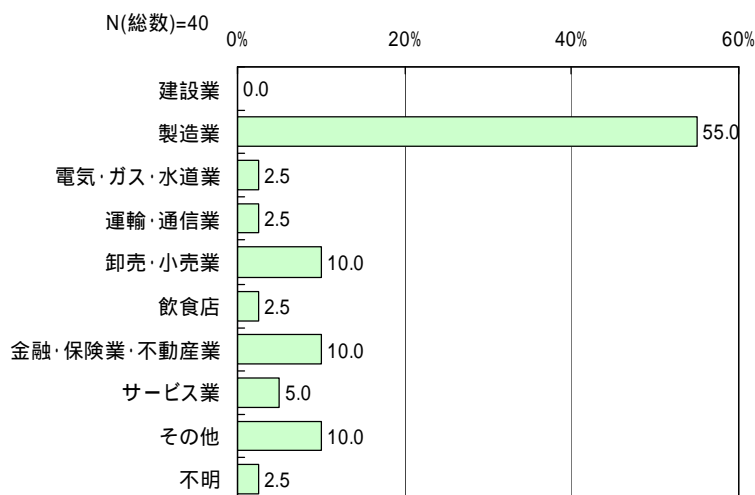
図表1-2 従業員数<事業者・単純>



(3) 業種

- 業種については、「製造業」が55.0%と半数を超えています。次いで「卸売・小売業」「金融・保険業・不動産業」がそれぞれ10.0%で並んでいます。

図表1 - 3 業種<事業者・単純>



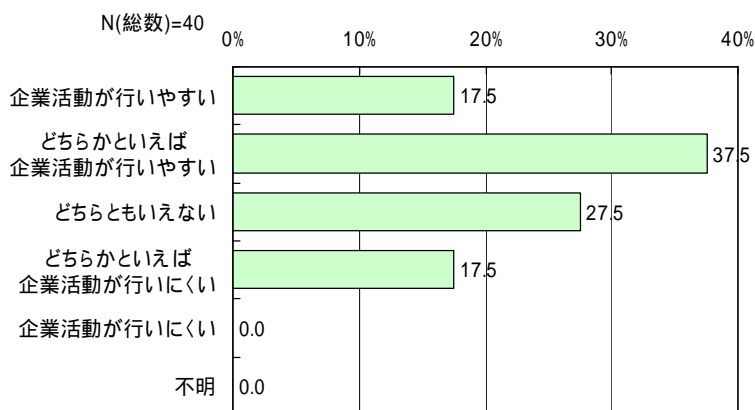
2. 企業活動上の地域環境について

(1) 企業活動が行いやすい地域かどうか

○半数以上が『企業活動が行いやすい』と回答しています。

- いなべ市が企業活動が行いやすいかどうかについては、「企業活動が行いやすい」及び「どちらかといえば企業活動が行いやすい」を合わせると、『企業活動が行いやすい』への回答は、55.0%と半数を超えています。一方、「企業活動が行いにくい」への回答は0.0%となっています。

図表2 - 1 企業活動の行いやすさ<事業者・単純>

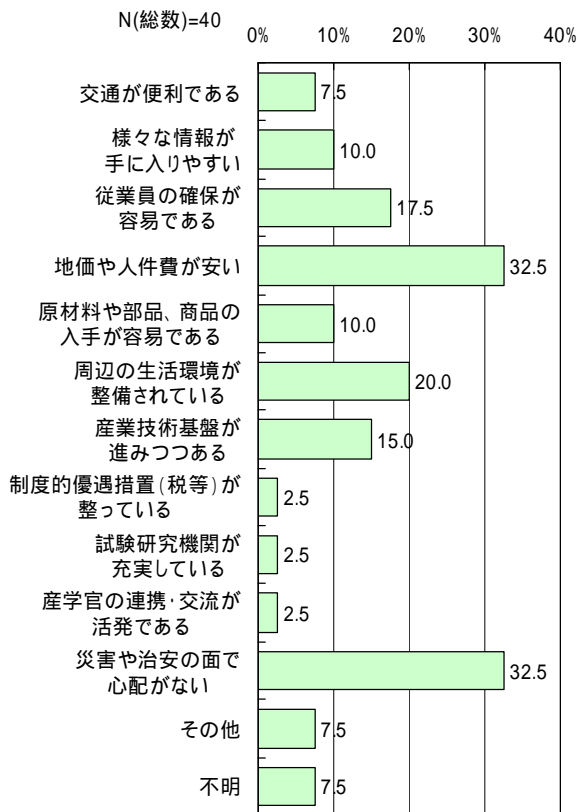


(2) 企業活動上でいなべ市の良い面・悪い面

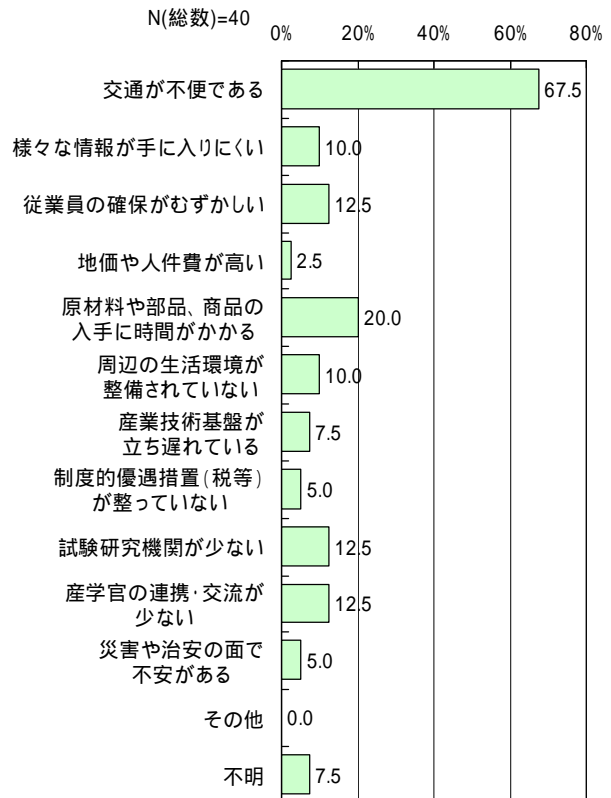
○良い面は、地価や人件費が安いこと。悪い面は、交通が不便なこと。

- ・ 企業活動上でいなべ市の良い面は、「地価や人件費が安い」及び「災害や治安の面で心配がない」がともに32.5%と最も高くなっています。
- ・ 一方、悪い面については、「交通が不便である」が67.5%と群を抜いており、円滑な企業活動に向けた交通網の充実が求められます。

図表2-2 企業活動上の良い面<事業者・単純>



図表2-3 企業活動上の悪い面<事業者・単純>



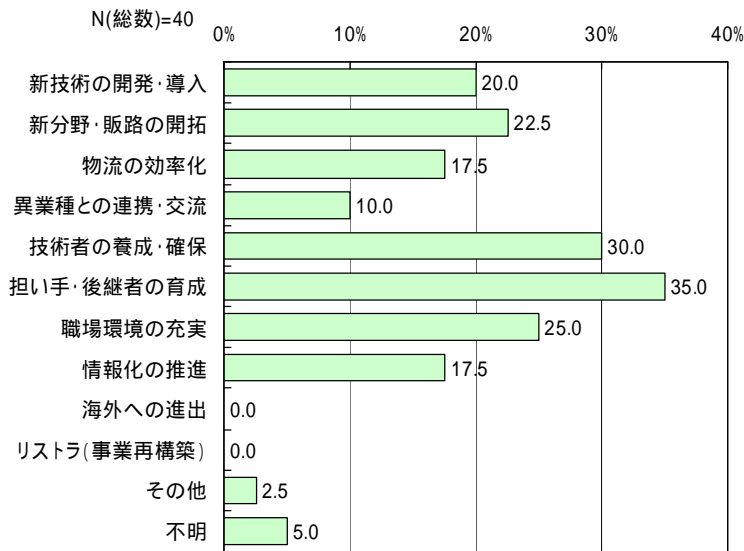
3. 今後の企業活動に必要なことについて

(1) 企業活動上、今後取り組むべきこと

○今後取り組むべきことは、担い手・後継者や技術者といった人材の確保・育成。

- ・ 「担い手・後継者の育成」が35.0%と最も高く、次いで「技術者の養成・確保」が30.0%、「職場環境の充実」が25.0%となっています。「海外への進出」及び「リストラ(事業再構築)」は0.0%となっています。

図表3 - 1 今後取り組むべきこと<事業者・単純>

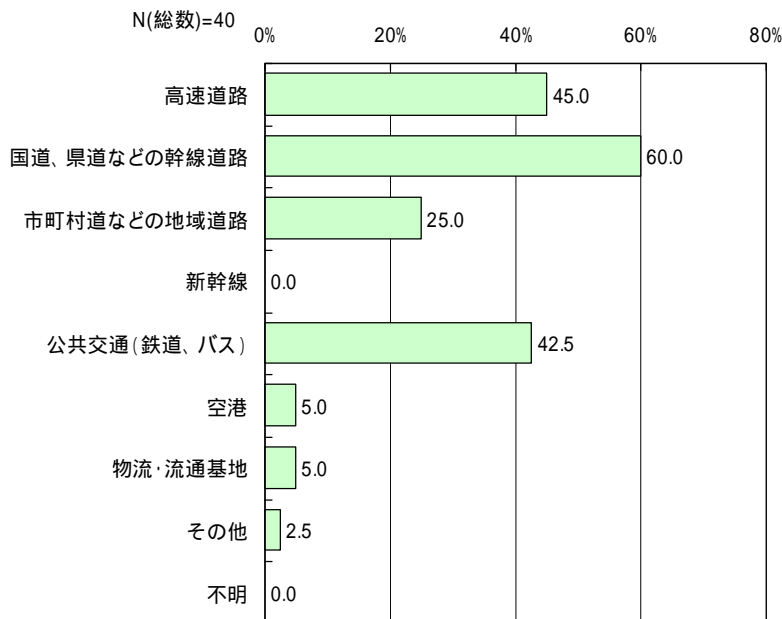


(2) 必要な交通基盤整備について

○今後必要な交通基盤は、「国道、県道などの幹線道路」が6割。

- ・ 今後必要な交通基盤整備については、「国道、県道などの幹線道路」が60.0%と最も高く、次いで「高速道路」が45.0%、「公共交通（鉄道、バス）」が42.5%となっており、今後、道路交通基盤の整備が求められます。

図表3 - 2 必要な交通基盤<事業者・単純>

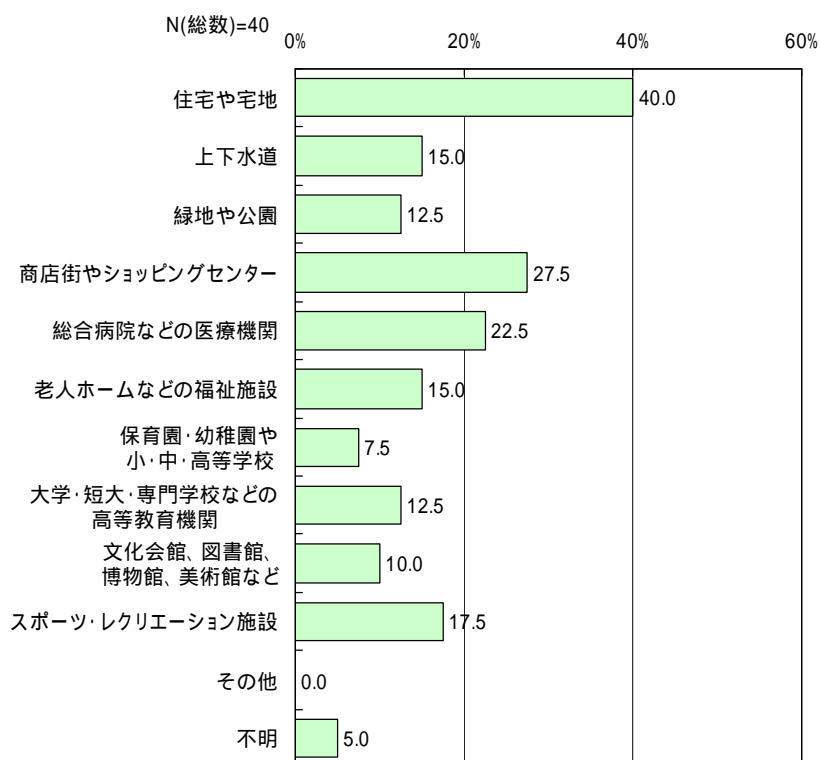


(3) 事業所周辺に必要な施設について

○事業所周辺に必要な施設は、「住宅や宅地」が4割。

- ・ 事業所周辺に求められる施設は、「住宅や宅地」が40.0%と最も高く、従業員にとって身近な住まいが求められていることが分かります。次いで「商店街やショッピングセンター」が27.5%、「総合病院などの医療機関」が22.5%となっています。

図表3 - 3 事業所周辺に必要な施設 < 事業者・単純 >



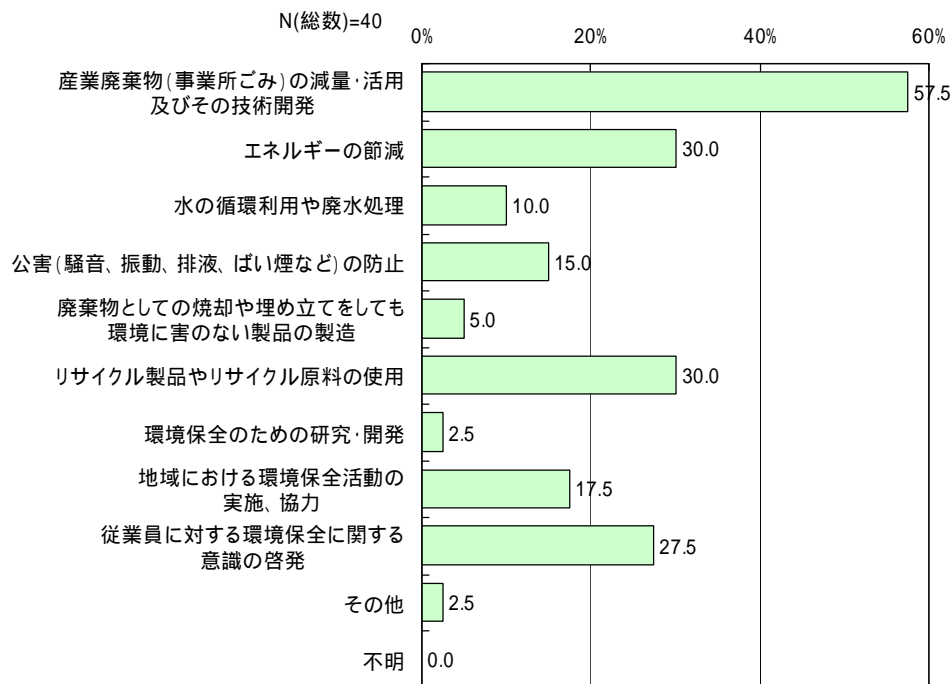
4 . 環境問題への取り組みについて

(1) 環境問題への取り組み

○環境問題への取り組みは、ごみの減量・活用及びその技術開発が6割弱。

- ・ 環境問題への取り組みについては、「産業廃棄物（事業所ごみ）の減量・活用及びその技術開発」が57.5%と群を抜いています。次いで「エネルギーの節減」及び「リサイクル製品やリサイクル原料の使用」がともに30.0%で並んでおり、「従業員に対する環境保全に関する意識の啓発」が27.5%となっています。

図表4 - 1 環境問題への取り組み<事業者・単純>



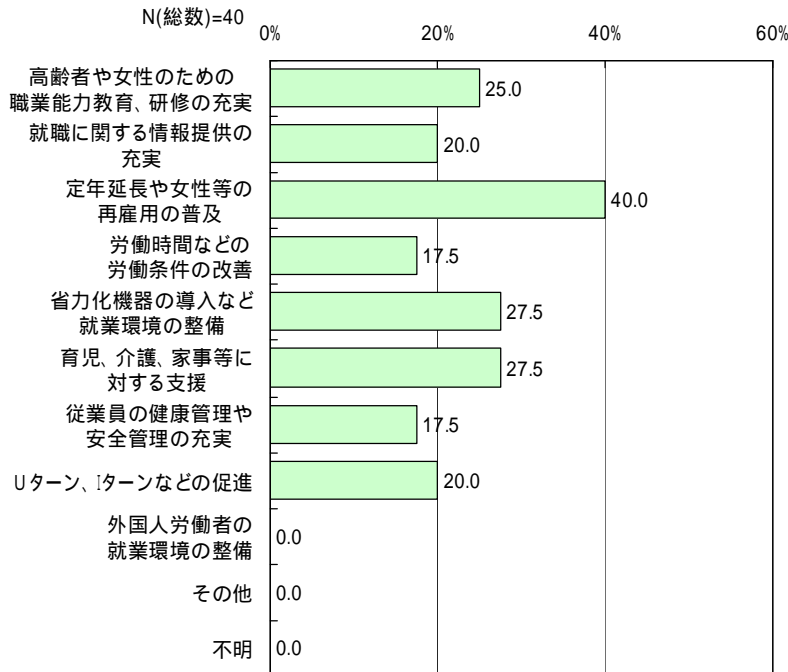
5 . 誰もが働きやすい環境づくりについて

(1) 少子・高齢化を踏まえた誰もが働きやすい環境づくりについて

○誰もが働きやすい環境づくりは、定年延長や女性の再雇用の普及が4割。

- ・ 誰もが働きやすい環境づくりについては、「定年延長や女性等の再雇用の普及」が40.0%と最も高く、次いで「省力化機器の導入など就業環境の整備」及び「育児、介護、家事等に対する支援」がともに27.5%、「高齢者や女性のための職業能力教育、研修の充実」が25.0%と、上位は高齢者や女性の雇用・就業環境支援が多くなっています。

図表5 - 1 誰もが働きやすい環境づくり<事業者・単純>



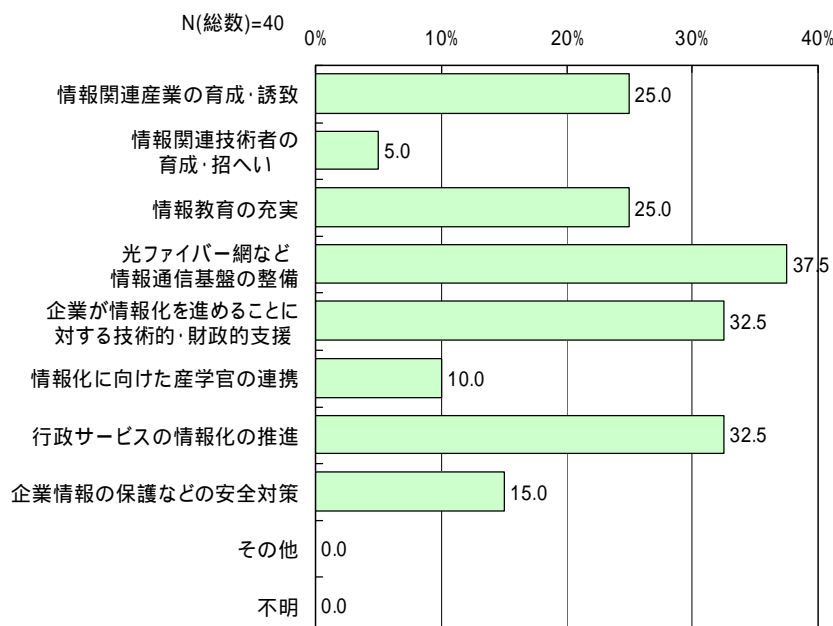
6 . 情報化について

(1) 企業活動や産業発展に役立つ情報化の方向性について

○情報化で大切なことは、光ファイバー網など情報通信基盤の整備が4割弱。

- ・ 情報化にあたって特に大切なことは、「光ファイバー網など情報通信基盤の整備」が37.5%と最も高く、基盤の整備が求められています。次いで「企業が情報化を進めることに対する技術的・財政的支援」及び「行政サービスの情報化の推進」がともに32.5%なっています。

図表6 - 1 情報化で大切なこと<事業者・単純>



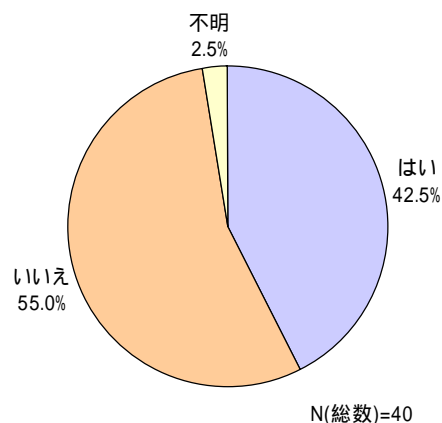
7. 地域活動等について

(1) 地域活動等への取り組み状況

○地域活動等に取り組んでいる事業所は4割強。

- ・ 地域活動等に取り組んでいるかどうかを尋ねたところ、「はい」が42.5%、「いいえ」が55.0%と取り組んでいない事業所が過半数となっています。

図表7-1 地域活動への取り組み状況<事業者・単純>

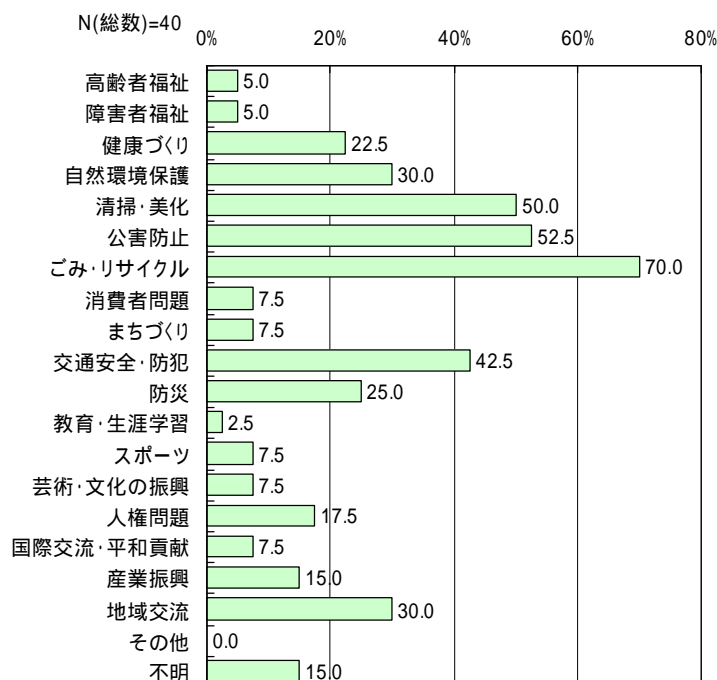


(2) 取り組んでいる地域活動

○取り組んでいる地域活動は、環境に関することが上位を占めています。

- ・ 事業所が取り組んでいる地域活動は、「ごみ・リサイクル」が70.0%と最も高く、次いで「公害防止」が52.5%、「清掃・美化」が50.0%となっており、環境面に関する取り組みが多く、市の自治会活動等とのさらなる連携が求められます。

図表7-2 取り組んでいる地域活動<事業者・単純>



(3) 事業所の福利厚生施設や人材との交流について

○4 事業所のうち1か所の割合で交流は可能。

- ・ 事業所の福利厚生施設の市民利用や事業所のサークル・人材等と市民との交流・連携が可能かどうかについては、「はい」が27.5%と約4事業所のうち1か所の割合となっています。

図表7-3 施設・人材と市民との交流について<事業者・単純>

